

2018

シラバス

Syllabus(Class Outline & Content)

JEP Kyoto

Japanese Experience Program in Kyoto

You,
Unlimited



シラバス

Syllabus

(講義概要・授業計画)

日本語 A・B (JEP Kyoto 2~6 クラス)	p.1~
日本語 A (各科目)	p.7~
日本の宗教 A・B	p.53
日本の歴史・文学 A・B	p.54
日本の社会・文化 A・B	p.56
日本の科学技術 A・B	p.58
日本の経済・経営 A・B	p.60
日本の武道・芸道 A・B	p.62
日本の教育 A・B	p.64
日本の言葉 A・B	p.65
日本の法律・政治 A・B	p.66
Japanese Religions A・B	p.67
Japanese Literature & Movies	p.69
Japanese History	p.70
Japanese Economy & Management	p.71
Japanese Law & Politics	p.72
Japanese Media & Arts	p.73
Japanese Society	p.74
Japanese Technology	p.75
Japanese Pop Culture	p.76
Special Lecture 1B (Japan's Diplomacy in the context of Globalization)	p.77
特別講義 1A・1B (IGO)	p.78
特別講義 1A・1B (N1 対応)	p.79
特別講義 1A・1B (N2 実践編)	p.80
特別講義 1A・1B (N2 基礎編)	p.82
特別講義 1A・1B (日本留学試験対策)	p.83
特別講義 1A・1B (日本文化入門)	p.84
特別講義 2A・2B (漢字)	p.85

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A・B (JEP Kyoto2 クラス)	11単位	時間割参照
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
到達目標【Attainment objectives】		
<p>目標 : CEFR の A2.2</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のことや家族のこと、買い物、近所、自分に近いことや、よく使われる文や表現が理解できる。 簡単なら、自分に近いことについて話ができる。 自分のことや近くのことや、自分に関係あることを、簡単な言葉で説明できる。 		
授業概要【Lecture Outline】		
<p>授業は、テキストや生活の中で実際に使われている物などいろいろな物を使っています。</p> <p>また、教室の外に出て日本語でいろいろな活動をする授業もあります。</p>		
授業方法【Lecture Method】		
<p>JEP Kyoto2 クラスは、次のような授業があります。</p> <p>「総合」、「視聴解」、「読解」、「ホームルーム」</p> <p>授業の内容は、科目のシラバスを読んでください。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>授業時間外に予習や復習などの宿題があります。調査(survey) やインタビューをしたりすることができます。授業の時に連絡します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>発表やプレゼンテーションをして評価します。そして、クイズや試験をして成績を出します。</p> <p>また、コースの前と後と定期試験のときに自己評価チェックリストをします。自分は何ができますか、何ができませんかを確認します。</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>授業の時に連絡します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業の時に連絡します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業では、ペアやグループで活動したり話し合ったりします。クラスの友だちと一緒にたくさん日本語で話してください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A・B (JEP Kyoto3 クラス)	11単位	時間割参考
到達目標【Attainment objectives】		
目標 : CEFR の B1.1 <ul style="list-style-type: none"> 授業や生活について、標準的な話や書いたものの大変な点が理解できる。 自分に関係のある話題や興味のあることについて、話したり書いたりして簡単な説明をすることができる。 		
授業概要【Lecture Outline】		
授業は、テキストや生活の中で実際に使われている物などいろいろな物を使って行います。 また、教室の外に出て日本語でいろいろな活動を行う授業もあります。		
授業方法【Lecture Method】		
JEP Kyoto3 クラスは、次のような授業があります。 「総合」、「視聴解」、「読解」、「文法」「文章表現」「ホームルーム」 授業の内容は、科目のシラバスを読んでください。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業時間外に予習や復習などの宿題があります。調査やインタビューをしたりすることができます。詳しい内容は授業の時に指示します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
発表やプレゼンテーションをして評価します。そして、クイズや試験をして成績を出します。 また、コースの前と後と定期試験のときに自己評価チェックリストをします。自分は何ができるか、何ができないかを確認します。		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
授業の時に連絡します。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の時に連絡します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業では、ペアやグループで活動したり話し合ったりします。クラスの友だちと一緒にたくさん日本語で話してください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A・B (JEP4) *4A/4B	11 単位	じかんわりひょうさんしょう 時間割表参照
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	第1学期	月～金1・2 & 金3
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの日本語レベルの到達目標は、4AがCEFR「B1.2」で、4BがCEFR「B1.3」で、だいたい以下のとおりです。		
・生活や旅行などで困ったことが起こっても、話を聞いたり書いてあるものを読んだりしてだいたい理解することができる。		
・自分の経験したことを簡単に説明したり、希望や意見を簡単に書いたり話したりすることができます。		
授業概要【Lecture Outline】		
授業は、テキストを使ったり生活の中で実際に使われている物などを使ったりして行います。また、教室の外に出て、日本語でいろいろな活動を行う授業もあります。		
授業方法【Lecture Method】		
各科目の授業方法は、主に以下のとおりです。		
「総合」(月／金)：トピックを中心に行う。情報収集したり、発表したりする。		
「視聴解」(火)：話や会話を聞いてポイントをつかむ。4Bでテレビ番組なども視聴する。		
「読解」(火)：留学生活で読む機会のある掲示やお知らせ、地域情報などを読んで、ポイントを読み取る。また、エッセイや新聞、サイト記事、小説、マンガなどを読み、読解テクニックを学ぶ。		
「文章表現」(水)：いろいろな出来事や話題、自分の意見を、読む人が分かりやすいように書く。		
「文法」(水)：基本的な文法の形式（形の作り方）、意味、使い方について復習と整理をします。		
「アカデミック・ジャパニーズ」(木)：大学等で必要な技能、例えば、発表のレジュメやレポートの書き方などを学ぶ。		
「口頭表現」(木)：ロールプレイ、発表、ディスカッションなどを中心に行う。		
「ホームルーム」(金3)：クラスの交流を深める。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業時間外に予習、復習をしたり、調査やインタビューをしたりすることができます。		
詳しくは授業時に指示します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
発表やプレゼンテーション、クイズや試験などをもとに成績を出します。		
また、自己評価チェックリストを使って自己評価し、何がどのくらいできるようになったかを確認します。		

テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】

授業時に紹介します。

参考文献【Recommended Literature】

授業時に紹介します。

受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】

多くの授業で、ペアやグループで活動したり話し合ったりします。協力的な態度で積極的に参加してください。JEP 4～の学生は大学の講義も受けられます。

プログラム名：日本語 A・B (JEP5)	担当教員名：時間割表参照
開講期・曜講時：時間割参照	単位：11 単位
プログラム概要	
<p>大学の内外で日本語を使って様々な活動や交流をします。その経験を通して得た気づきから、日本や自国、他の文化についての理解を深め、日本語で自由に表現できるようになることを目指します。</p> <p>科目は、「総合」「アカデミック・ジャパニーズ」「ビジネス日本語」「視聴解」「読解」「口頭表現」「文章表現」「文法」「関西方言」「HR(ホームルーム)」の10科目です。</p>	
到達目標	
<p>到達目標レベルは、CEFR B2.1 で、おおよそ以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 流暢に自然に会話することができる。自分にとって重要な点を強調し、関連事項を詳しく説明したり、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明したりして、主張を維持できる 自分の関心のある分野について、多くの情報源からの情報と論拠を統合して明瞭で詳細な報告ができる 日本文化や他の学生の出身文化などの異文化と自文化を理解するためのいくつかの視点を身に付けている <p>科目ごとの具体的な到達目標は、各クラスの最初の授業時に説明します。</p>	
授業方法	
<p>各科目的授業方法は、主に以下のとおりです。</p> <p>「総合」：プロジェクトワークを行う。日本人や日本語資料から情報収集し、記事や映像を作ったり、発表したりする</p> <p>「アカデミック・ジャパニーズ」：大学や大学院での勉強・研究に必要なクリティカルシンキングの力を身に付ける</p> <p>「ビジネス日本語」：企業研究、就活準備、ビジネスメールなど、ビジネス場面で必要なコミュニケーションを学ぶ</p> <p>「視聴解」：時事ニュースやドラマなど映像を視聴し、その内容や背景を理解する。また、それについて話し合う</p> <p>「読解」：様々な文章から情報を取るためのスキルを養う。記事や小説などを読んで詳細を理解し、内容を話し合う</p> <p>「口頭表現」：会話、発表、議論・討論など、口頭表現の特徴と発音を学ぶ</p> <p>「文章表現」：メール、実用文、書評や報告レポートなど、文章表現の特徴と正書法を学ぶ</p> <p>「文法」：基本的で重要な日本語文法を分析したり整理したりする</p> <p>「関西方言」：日本語の多様性と関西方言の特徴を学び、実態を調べたり、会話したりする</p> <p>「ホームルーム」：各自が得意なことを紹介し合って、異文化理解とクラスの交流を深める</p> <p>学外で活動したり、日本人学生と一緒に活動したりすることもあります。また、活動の成果物は、グローバルコミュニケーション、HP や SNS、発表会などで公開することもあります。</p>	
授業時間外における予習・復習など	
<p>授業時間外に予習、復習をしたり、調査やインタビューをしたりすることができます。詳しくは授業時に指示します。</p>	
試験方法・成績評価方法	
<p>筆記試験だけでなく、目標がどのくらい達成できたかを示すループリック評価も行います。また、学期の前後に自己評価チェックリストを使って自己評価し、何ができないか、何がどのくらいできるようになったかと一緒に確認します。</p>	
テキスト（著者名・「書名」・出版社名）	
<p>各科目の授業時に指示します。</p>	
参考文献（著者名・「書名」・出版社名）・参考 URL など	
<p>各科目の授業時に紹介します。</p>	
受講上の注意・担当者からのひとこと	
<p>多くの授業で、ペアやグループで活動したり話し合ったりします。個人的な活動だけでなく、グループ活動への積極的で協力的な参加態度が望まれます。</p>	

プログラム名：日本語 A・B (JEP6)	担当教員名：時間割表参照
開講期・曜講時：時間割参照	単位：11 単位
プログラム概要	
<p>大学の内外で日本語を使って様々な活動や交流をします。その経験を通して得た気づきから、日本や自国、他国の文化についての理解を深め、日本語で自由に表現できるようになることを目指します。</p> <p>科目は、「総合」「アカデミック・ジャパニーズ」「ビジネス日本語」「視聴解」「読解」「口頭表現」「文章表現」「文法」「関西方言」「HR(ホームルーム)」の10科目です。</p>	
到達目標	
<p>到達目標レベルは、CEFR B2.2 で、おおよそ以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、文法も正確で、その場にふさわしい丁寧さで、自然にコミュニケーションできる ライティングもプレゼンも明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を充実させることができる 日本文化や他の学生の出身文化などの異文化と自文化を理解するためのいくつかの視点を身に付けている <p>科目ごとの具体的な到達目標は、各クラスの最初の授業時に説明します。</p>	
授業方法	
<p>各科目的授業方法は、主に以下のとおりです。</p> <p>「総合」：プロジェクトワークを行う。日本人や日本語資料から情報収集し、記事や映像を作ったり、発表したりする</p> <p>「アカデミック・ジャパニーズ」：大学や大学院での勉強・研究に必要なクリティカルシンキングの力を身に付ける</p> <p>「ビジネス日本語」：企業研究、就活準備、ビジネスメールなど、ビジネス場面で必要なコミュニケーションを学ぶ</p> <p>「視聴解」：時事ニュースやドラマなど映像を視聴し、その内容や背景を理解する。また、それについて話し合う</p> <p>「読解」：様々な文章から情報を取るためのスキルを養う。記事や小説などを読んで詳細を理解し、内容を話し合う</p> <p>「口頭表現」：会話、発表、議論・討論など、口頭表現の特徴と発音を学ぶ</p> <p>「文章表現」：メール、実用文、書評や報告レポートなど、文章表現の特徴と正書法を学ぶ</p> <p>「文法」：重要な日本語文法を分析したり整理したりする</p> <p>「関西方言」：日本語の多様性と関西方言の特徴を学び、実態を調べたり、会話したりする</p> <p>「ホームルーム」：各自が得意なことを紹介し合って、異文化理解とクラスの交流を深める</p> <p>学外で活動したり、日本人学生と一緒に活動したりすることもあります。また、活動の成果物は、グローバルコミュニケーション、HP や SNS、発表会などで公開することもあります。</p>	
授業時間外における予習・復習など	
<p>授業時間外に予習、復習をしたり、調査やインタビューをしたりすることができます。詳しくは授業時に指示します。</p>	
試験方法・成績評価方法	
<p>筆記試験だけでなく、目標がどのくらい達成できたかを示すループリック評価も行います。また、学期の前後に自己評価チェックリストを使って自己評価し、何ができないか、何がどのくらいできるようになったかを一緒に確認します。</p>	
テキスト（著者名・「書名」・出版社名）	
<p>各科目的授業時に指示します。</p>	
参考文献（著者名・「書名」・出版社名）・参考 URL など	
<p>各科目の授業時に紹介します。</p>	
受講上の注意・担当者からのひとこと	
<p>多くの授業で、ペアやグループで活動したり話し合ったりします。個人的な活動だけでなく、グループ活動への積極的で協力的な参加態度が望まれます。</p>	

シラバス
Syllabus
(日本語・各科目)

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP2総合)	8単位	白石典子・中野久美子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	第1学期	月・火・水・木 1, 2講時

到達目標【Attainment objectives】

目標：CEFR A2.2

もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくとも日常での簡単なやり取りができる。
 Can interact with reasonable ease in structured situations and short conversations, provided the other person helps if necessary. Can manage simple, routine changes without undue effort; can ask and answer questions and exchange ideas and information on familiar topics in predictable everyday situations.

非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。

Can understand short, simple texts on familiar matters of a concrete type which consist of high frequency every day or job-related language.

出来事、過去の活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。

Can write very short, basic descriptions of events, past activities

講義概要【Lecture Outline】

授業で習ったことや、日常生活で経験したことを通して、日本と自分の国の社会や文化について、より理解し、日本語で自分の意見や考えが表現できることを目指します。

講義方法【Lecture Method】

まず、『まるごと 日本のことばと文化 初級2』の「かつどう」を使って会話やインタビュー活動などで話すことで、聞くことの練習をします。それから、「りかい」を使って文法・語彙・表現などの練習問題を行いながら、知識や理解を深めます。また、各課のトピックを通して日本の文化・習慣・社会などについて学びます。習った日本語を使って、自分の意見や考えを伝える練習もします。

初級2が終わってからは、『まるごと 日本のことばと文化 初中級』を使って、初級から中級にステップアップするための練習を行います。

2018年度シラバス（講義概要・授業計画）

授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】

授業の後にいつも復習をしましょう。授業の前は、必ず新しいことばや文法の予習をしましょう。

日本語が上手になるためには、授業だけではなく、自律学習がとても大切です。

試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】

- | | |
|----------------|--|
| ・試験(3回) | 35% : 『まるごと 初級2』2回 ・『まるごと 初中級』1回
※どちらも口頭試験と筆記試験があります。 |
| ・クイズ(ディクテーション) | 35% : 各課終了後に行います。 |
| ・発表 | 30% : 2回 |

テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】

『まるごと 日本のことばと文化 初級2』・『まるごと 日本のことばと文化 初中級』

参考文献【Recommended Literature】

ウェブサイト「まるごとプラス 初級2 A2」 <http://a2-2.marugotoweb.jp/en/>

他の参考文献やウェブサイトなどは、授業のときに伝えます。

受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】

授業ではペアやグループで活動したり、話し合ったりしますから、積極的・協力的に参加しましょう。

授業中は携帯電話や辞書を使わないでください。がんばって日本語だけで話しましょう。

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A JEP 2 (視聴解)	1 単位	いいだ ようこ 飯田 洋子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	第1学期	金曜 1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの目標レベルは、CEFR A2.2 くらいです。		
1. ゆっくりと、はつきりした議論なら、自分の周りで議論されている話題はおおかた分かる。 Can generally identify the topic of discussion around him/her, when it is conducted slowly and clearly.		
2. 短い、はつきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。 Can catch the main point in short, clear, simple messages and announcements.		
3. 日常的具体的な内容や話題の短いテキストや、発話の全体の意味を手がかりに、知らない単語のおおよその意味を文脈から引き出すことができる。 Can use an idea of the overall meaning of short texts and utterances on everyday topics of a concrete type to derive the probable meaning of unknown words from the context.		
講義概要【Lecture Outline】		
授業は、「新しい友だち」「店で食べる」など、総合科目で学んだトピックを中心に行います。総合科目で学習した語彙や表現を使った会話の動画を見て、話の内容やポイントをつかむ練習をします。また、視聴解の学習を通じて、日本社会や文化についての理解を深めます。		
講義方法【Lecture Method】		
動画を使って、会話の内容やポイントを聞き取る練習をします。また、日常生活の中で、日本人とより良い人間関係が築けるよう、コミュニケーションのマナーや日本の習慣などについても学習します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業で勉強したことは、Web教材を使って復習し、復習クイズの勉強に役立ててください。		
普段の生活の中でも、日本語のニュースや映画を見たり、駅のホームや電車、デパートでのアナウンスを注意深く聞いたりするなど、積極的に日本語を聞くよう心がけてください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
定期試験(3回) : 50%		
復習クイズ(毎回) : 30%		
平常点(授業への参加度、宿題など) : 20%		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title - Author - Publisher - Price)】		
『まるごとプラス』ウェブサイト : http://a2-2.marugotoweb.jp/ja/		
『WEB版 エリンが挑戦！にほんごできます。』 https://www.erin.ne.jp/		
参考文献【Recommended Literature】		
授業中に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業には主体的、積極的に取り組んでください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP2読解)	1単位	木下 謙朗
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	第1学期	金曜日 2講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>次のレベルになることを目標とします。(CEFR A2.2)</p> <p>日常の具体的な内容や話題の短いテクストや、発話の全体の意味を手がかりに、知らない単語のおおよその意味を文脈から引き出すことができる。</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>インプット(読む、聞く)とアウトプット(話す、書く)を繰り返し、今までに勉強した文型を使って、自分の伝えたいことを自分のことばで伝えられるような日本語運用力が身につくような勉強をします。身近な生活場面や日本文化・習慣などを中心に取り上げるので、同時に日本についての理解を深めていくことを目指します。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>読み聞いたりしながら新しい表現(語彙)を学び、それが使えるような活動(ドリル、ロールプレイ、プレゼンテーションなど)をします。各課のCan-doを確認しながら、「できること」を増やしていきます。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>予習と復習を必ずしてください。授業中に紹介します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
定期試験	30% : 2回	
復習クイズ	30% : 毎課終了時に、学習した内容についての確認クイズをします	
発表	20% : プrezentation	
平常点	20% : 提出物、宿題	
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>『にほんご語彙力アップトレーニング』</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業中、日本語だけを使いましょう。携帯電話や辞書は使わないでください。遅刻や欠席をする場合は必ず連絡してください。</p>		
<p>他の授業と同じように3分の2以上出席しないと単位がありません。遅刻も3回で欠席1回と見なします。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP2, 3 合同ホームルーム)	1単位	木下 謙朗
サブテーマ【Sub-Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	第1学期	金曜日 3講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>・学修あるいは生活上の問題がなく充実した大学生活、日本での生活を送ることができる。</p> <p>・日本語：自分の関心のあるテーマや日常生活を送る上での問題などについて、自分のことばで意見を言ったり、話し合ったりすることができる。</p> <p>・異文化理解：自分の文化と日本文化やほかの国の文化の相違点や共通点を理解し、尊重することができる。</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>自分の国や地域の文化を紹介したり日本文化やほかの国の文化を理解したりする活動を行います。</p> <p>学習上、生活上の相談に乗ります。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>自分の国などを紹介したり、日本の文化に触れたりします。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>発表 80% : プレゼンテーション</p> <p>平常点 20% : 提出物、宿題</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>特にありません。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>他の授業と同じように3分の2以上出席しないと単位がありません。遅刻も3回で欠席1回と見なします。</p> <p>授業中、日本語だけを使いましょう。携帯電話や辞書は使わないでください。遅刻や欠席をする場合は必ず連絡してください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A	2 単位	三登 由利子・鍋島 有希
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
JEP3総合	第1学期	月・火・木曜 1、2講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B1.1くらいです。具体的な目標は次の通りです。		
1. トピックに関係のあるいろいろな話を聞いて、だいたいの内容を理解したり知りたい情報を聞き取ったりできる。		
2. 情報を交換したり、考えやコメントを言い合ったりして、相手とやりとりしながら、実際の場面で、ある程度まとまりのある会話が組み立てられる。		
3. 自分の好きな音楽について話す、自国の料理について情報提供するなど、少しくわしい話ができる。		
4. インターネット上の記事やSNS上の書き込みなどを使い、だいたいの内容を理解したり必要な情報を見つけたりできる。		
講義概要【Lecture Outline】		
授業は、「私の国の料理」「好きな音楽」「習い事」などトピックを中心に行います。そのトピックについて情報収集・話し合い・共同作業・発表などをやって日本語の運用力を高め、実際のコミュニケーション場面で「できる」ことを増やし、自分の文化や日本文化、クラスメートの国の文化や社会の理解を深めます。わからないことばを推測したり、別の言葉で言い換えたり、相手に質問や確認をしながら会話を進めたりするようなストラテジーを取り上げます。また、自己評価チェックリストを使って、何がどのぐらいできるようになったかを確認します。		
講義方法【Lecture Method】		
活動型の授業です。教室の中だけでなく、外へ出て、日本語を実際に使います。そして、そこで気づいたことを振り返ったり、話し合ったり、まとめて発表したりします。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
語彙の予習や発表準備をします。詳しくは、授業時に指示します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
定期試験3回：30%（記述試験、口頭試験） 各課クイズ：20%		
口頭発表：30%（トピックに関連したもの）		
校外学習：20%（積極的参加度5%、プレゼンテーション15%（プレゼンター10%、リスナー5%））		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
『まるごと 日本のことばと文化』中級1 (B1) (三修社) http://marugotoweb.jp/		
参考文献【Recommended Literature】		
授業のときにお知らせします。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業では、ペアやグループで活動したり、話し合ったりすることが多くなります。個人的な活動だけでなく、グループ活動への積極的で協力的な参加態度が望まれます。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A	2単位	なべしま ゆうき 鍋島 有希
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
JEP3 文章表現	だい がつ き 第1学期	すいよう こうじ 水曜1講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの到達目標は、CEFR B1.1 くらいです。目標は、次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ソーシャルネットワークの自己紹介で、興味を持っていること、希望や抱負などについて、書くことができる。 友人に教えるために、料理の作り方のメモを書くことができる。 コンサートに友人を誘うメールを書くことができる。そのとき、どんなコンサートかを簡単に説明できる。 宿泊予定のホテルや旅館に、メールで質問したり、希望を伝えたりすることができる。 知り合いに、最近の自分の様子を知らせるメールを書くことができる。 インターネットの相談サイトなどの投稿に対して、自分のコメントを簡単に書くことができる。 武道などのクラスに、受講方法などを問い合わせるメールを書くことができる。 欲しい商品の条件や特徴を、日本人コミュニティサイトなどの掲示板に書き込むことができる。 祭りや行事に参加した体験と感想を、ソーシャルネットワークで簡単に紹介することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>このクラスは、いろいろな場面で、まとまりのある文章が書けるようになることを目指します。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<ol style="list-style-type: none"> 書く内容を整理したり、モデルを見て参考にしたり、テーマに関する語彙を勉強します。 目的と場面にあった文章を、実際に自分で書いてみます。 書いた文章は自分でまたはクラスメートと一緒に、正しいかどうか確認します。 確認して正しく直した後発表をして、内容についてコメントしたり、返事を考えたりします。 		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>テーマに関する語彙（語彙シートの配布）の意味を確認しておいてください。</p> <p>文章を書くための準備（情報を集める）など、宿題を出すことがあります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>課題作文 10%×9回、平常点（積極的参加度） 10%</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>『まるごと 日本のことばと文化』中級 (B1) (三修社) http://marugotoweb.jp/</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>必要な場合は、授業の中でお知らせします。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>自分の意見やお願いなどが、聞いている人に伝わるかを考えて練習しましょう。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A	2 単位	なべしま ゆうき 鍋島 有希
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
JEP3文法	第1学期	水曜2講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B1.1 くらいです。目標は、次の通りです。		
1. 基本的な文法について、正しい使い方がわかる。		
2. 適切な文法を使って、自分が表現したいことを話したりしたり、書いたりできる。		
3. 生活の中や、自分が興味をもっている分野でよく使われる表現については、正確に使うことができる。		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスは、会話に役立つ文法や文型を取り上げて練習します。また、SNS 上の書き込み、インターネットの口コミ、ブログ記事などの内容を理解するのに役立つ文法や表現も練習します。		
講義方法【Lecture Method】		
文法や文型の知識をたくさん増やすことだけでなく、具体的な文脈や場面と結びつけながら練習します。「知っている」だけでなく「使える」ことを目的に練習します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
毎回、授業の最初に前回の文法の復習クイズをします。		
宿題：語彙シートを配りますから、語彙の意味を確認しておいてください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
復習クイズ：30%、定期試験（3回）：60%、平常点（積極的参加度）：10%		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
『まるごと 日本のことばと文化』中級 (B1) (三修社) http://marugotoweb.jp/		
参考文献【Recommended Literature】		
必要な場合は、授業の中でお知らせします。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
積極的に短文作成をしたり、学習した文法や文型を使って話したりすることが、習得につながります。場面や人間関係などを考えて、適切な表現を考えて練習しましょう。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP3視聴解)	1単位	木下 謙朗
サブテーマ【Sub-Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	第1学期	金曜日 1講時
到達目標【Attainment Objectives】		
<p>このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFRで、およそ「B1.1」です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 発音と内容がはっきりしていれば、日本での生活で耳にする駅やデパート、大学などの放送を聞いて、大事な点を理解できる。 発音と内容がはっきりしていれば、日本での生活上の会話や大学の授業を聞いて、大事な点を理解できる。 短いニュースや番組などが興味のある話題ではっきりとした標準語で話されれば、大事な点を理解できる。 自分にとって身近な問題に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップを頼りに、取り上げられている問題の主要な点を理解することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>会話や議論を聞いたり、会話や議論に参加したりするための聞く技能を高めます。</p> <p>身近で興味のあるニュースや番組、講演、インタビュー、講義などを聞く技能を高めます。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>ペアやグループでテキストの会話を聞いて、場面や人間関係を想像します。</p> <p>DictoglossやDictationを行って大事なポイントは何か、どんな内容か聞き取ります。</p> <p>自己評価チェックシートを使って、聞く能力がどのくらい伸びたかを考えます。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>予習と復習を必ずしてください。授業のときに紹介します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>定期試験：40%：2回 (11/14、1/16 予定)</p> <p>復習クイズ：30% 毎課終了時に、学習した内容についての確認クイズ</p> <p>平常点：30% 提出物、宿題</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業中、日本語だけを使いましょう。携帯電話や辞書は使わないでください。遅刻や欠席をする場合は必ず連絡してください。他の授業と同じように3分の2以上出席しないと単位がありません。遅刻も3回で欠席1回とみなします。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A JEP 3 (読解)	1 単位	飯田 洋子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの目標レベルは、CEFR B1.1 くらいです。</p> <p>1. 話題が身近なものであれば、時には知らない単語の意味を文脈から推測し、文の意味を推論できる。 Can extrapolate the meaning of occasional unknown words from the context and deduce sentence meaning provided the topic discussed is familiar.</p> <p>2. 手紙、パンフレット、短い公文書のような日常の資料の中から重要な情報を探し出し、理解できる。 Can find and understand relevant information in everyday material, such as letters, brochures and short official documents.</p> <p>3. 旅行中の出来事や感想などが、ある程度詳しく書かれた家族や友人からのメールを読んで、大部分の内容を理解することができる。 Can read a letter from one's family or friends written in some detail about what happened during a trip and how the senders felt about it, and understand most of the content.</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>この授業では、様々なトピックの文章や、身近にある資料などを読み、必要な情報を読み取る練習をします。また、読解の練習を通じて、日本の社会・文化・習慣などについての理解も深めます。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>この授業では、主に読む練習をします。教材として、様々なトピックの文章や、身近にある資料（パンフレット、説明書など）、新聞・雑誌の記事、メール文などを扱います。わからない言葉の意味を推測したり、文章のポイントをつかむ練習もします。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ul style="list-style-type: none"> 授業で勉強したことは必ず復習し、次の授業に臨んでください。 普段の生活の中でも、大学や街の掲示物、インターネットの情報サイト、新聞・雑誌などを使って、積極的に日本語の文章を読むよう心がけてください。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（3回）：50% 復習クイズ（毎回）：30% 平常点（授業への参加度、宿題など）：20% 		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>授業中に配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業中に紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業には主体的、積極的に取り組んでください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP4A 総合)	4 単位	もりもと ゆかこ 森本由佳子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
自分の考えをわかりやすく伝えよう	2018年度 第1学期	月1・2 金1・2
到達目標【Attainment objectives】	このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2です。以下のようなことができるようになることが目標です。	
<ul style="list-style-type: none"> ある程度長い文章を読んで、必要な情報を得たり内容を理解したりすることができる。 身近な話題についてはっきり話された音声を聞いて、大部分の情報を理解することができる。 身近な具体的な話題だけでなく抽象的な話題についても、ある程度正確にわかりやすく自分の考え方や情報を伝え、やりとりすることができる。 準備してあれば、関心のある話題について、まとまりのあるわかりやすい発表をし、質問に対応することができる。 自分の文化と、日本や他の国の文化との共通点・相違点に気づき、理解を深めることができる。 		
授業概要【Lecture Outline】	この授業は、トピックを中心に行います。いろいろなトピックについて読んだり聞いたりして情報を集めたり、それについてクラスメートと意見を交換したり発表したりします。日本の社会や文化への理解を深めるとともに、自分やクラスメートの文化についても理解を深めます。	
授業方法【Lecture Method】	まず、自分が今もっている日本語力や知識を使って、さまざまなタスクにチャレンジします。そして、さらに自分に必要なことに気づき、そのタスクを行うために必要なことばや表現、文法などを学習します。教室の中でクラスメートとの話し合いや発表をしたり、教室の外で日本人と話したりしながら、自分の経験や考えなどを伝える練習をします。また、あるトピックについて書かれた文章を読んだり音声を聞いたりして、必要な情報を得たり、日本の社会や文化についての理解を深めたりします。	
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】	<ul style="list-style-type: none"> 各トピックに関係することばや表現、文法などについてクイズをしますので、しっかり復習をしてください。 授業時間外に、調査やインタビューをしたりすることができます。 	
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】	クイズ20% ワークシートなどの課題20% 発表20% 定期試験（中間・期末）40%	
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】	『できる日本語 中級』嶋田和子 監修、アルク、3400円+税	
参考文献【Recommended Literature】	必要な場合は、授業時に紹介します。	
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】	<p>ペアやグループで活動したり話し合ったりしますので、積極的に参加してください。</p> <p>また、JEP4A「口頭表現」のクラスで学習することと関係付けながら、授業を進める予定です。「口頭表現」のクラスも合わせて取るようにしてください。</p>	

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語A (JEP4A アカデミック・ジャパニーズ)	1 単位	戎妙子 (えびす たえこ)
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
現代社会にある問題について考えよう。	第1学期	木曜日 2講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2くらいです。目標は以下のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> わかりやすい言葉で書かれた社会に関する文章を、質問を考えながら読むことができる。 文章の内容の大切な点を整理して、短くまとめることができる。 グラフ等を見て自分が読み取ったことをまとめたり、口頭で説明したりすることができる。 ある話題について、賛成か反対か理由を示して意見文を書くことができる。(400字程度) ある話題について、課題文を読んで型にそった小論文を書くことができる。(600~800字程度) 		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスは大学の授業を受けるために必要なスキルを学ぶクラスです。主に、①質問作り、②文章の要約、③グラフの読み方、④意見文の書き方、⑤基本的なレポートの書き方、⑥説明する時に配る資料の作り方などの練習をします。		
講義方法【Lecture Method】		
クラスでは以下の練習をする予定です。①文章を理解するために必要な単語・表現などの練習、②質問をつくる練習、③情報を整理する練習、④要点をとらえて短くまとめる練習、⑤書き言葉の練習や引用の仕方などレポートを書くために必要な練習、⑥説明する時に配る資料を作る練習。		
自分一人でまたはクラスメイトと話し合いながら課題に取り組んでもらいます。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ol style="list-style-type: none"> 資料を読んで、わからない単語があつたら意味を確認してください。 大切な言葉や表現について確認クイズをする予定ですので、復習をしっかりとしてください。 要約をしたり、短い意見文、説明用のアウトラインを書く課題があります。 最終レポートを書くために情報を集める課題があります。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
言葉や表現の確認クイズ 10% 要約クイズ 20% グラフの読み取り 10% ループリック (課題 20% 説明 20% 最終レポート : 20%)		
テキスト (書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
特にありません。授業の時に資料を配ります。自分できちんとファイルをしてください。		
参考文献【Recommended Literature】		
必要な場合は、授業の中でお知らせします。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
アカデミックな勉強を日本語でするためには、漢字の言葉やカタカナ語を増やす必要があります。これは少し大変ですが、ステップアップするためにどんどんチャレンジしてください。クラスメイトと協力して課題に取り組む活動を予定していますので、積極的に参加してください。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP4A 口頭表現)	1 単位	もりた みさと 森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	2018年度 第1学期	木曜 2講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B1.2 と 2.1 の間ぐらいです。具体的な目標は以下のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> 自分の関心のあること、身近な話題や問題について、意見を言ったり、相手に説明したりすることが自信を持ってできる。また、どうしてそう思うのか、ある程度理由も言うことができる。 自分の興味があること、よく知っている話題について、準備していれば、はっきりとわかりやすいプレゼンテーションができる。 もし相手が答えを早口で言ったり、長かったりすると、時には繰り返しを求めることがあるが、情報をチェックし、確認しながら用意されたインタビューをやり遂げることができる。 何かを決めるような場面で、自分の案を提示したり、さまざまな案を比べたりしながら、議論することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスは、インフォーマルな場面、フォーマルな場面でのディスカッション、インタビュー、口頭発表で必要なスキルを、実践を通して学ぶクラスです。主にディスカッション、インタビュー、口頭発表、ロールプレイなどを行います。		
講義方法【Lecture Method】		
ディスカッション、インタビュー、口頭発表などで必要な「意見を言う」「説明する」「質問する」「確認する」「あいづちを打つ」場合の表現を学び、練習します。そして、実際に課外活動で何をするか企画し、プレゼンし、話し合いで決める活動をします。また、日本人学生にインタビューしたり、ロールプレイと一緒にしたりすることもあります。フィードバック、評価のために、活動の様子をビデオに撮ることもあります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業時間外に資料を調べたり、発表の準備をしたりする課題を出します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業内活動 ^{*1} (60%)、課題提出 (10%)、授業参加度 ^{*2} (10%)、期末試験 (20%) をループリックで評価。		
^{*1} 一部の活動を日本人学生に評価してもらうことがあります。		
^{*2} 授業中、授業に関係のないこと（携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど）をした場合、授業参加度から減点します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の中で紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業内の活動には積極的に参加してください。この授業での話し合いで決める課外活動を、JEP4A の総合クラスで実際にすることも予定しているので、総合と一緒に履修したほうがいいです。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語A (JEP4A 文章表現)	1単位 1unit	たちかわ まさえ 立川真紀絵		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】		
日本語でまとまりのある文章を書こう	2018年度 第1学期	水1		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2と2.1の間ぐらいです。具体的な目標は、次の通りです。				
1. 短くてよいので、日本語でまとまりのある文章を書くことができる。 2. 生活の中や自分が興味をもっている分野の話題については、詳しく書くことができる。 3. 説明や意見を、読む人にわかりやすいように書くことができる。				
授業概要【Lecture Outline】				
このクラスでは、これまでに学習した文法や表現を意識しながら、文章を書く練習します。400字ほどのまとまりのある文章を書く力を身につけ、いろいろな物事についての説明、調べたことの報告、自分の意見について読む人がわかりやすいように書くことを自指します。				
授業方法【Lecture Method】				
書く内容について授業でディスカッションし、整理した上で文章を書きます。文章のフィードバックを受けて、気がついた点(わかった・わからない点、よい・よくない点)について学生同士で共有し、文章を直します。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
文章を書くための情報を集めたり、文章を書く宿題を出すことがあります。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
宿題：10%、授業での課題文：60%、期末レポート：30%				
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】				
プリントを配ります。				
参考文献【Recommended Literature】				
授業でお知らせします。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
授業では、学生同士でお互いの文章を読み、コメントをします。また、文章を書くこと以上に、書いた文章を置すことを大切にしています。人から積極的にコメントをもらってください。				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語A (JEP 4A 文法)	1 単位	みたに しづこ 三谷 閑子		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】		
日常生活や関心のある話題について、自分が言いたいことを適切に表現できる力をつける	ねんど 2018年度 だいいちがつき 第1学期	すいようび 水曜日 2時間目		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスが目指す到達レベルは、CEFR B1.2 と 2.1 の間ぐらいです。具体的な目標は以下の通りです。				
1. 基本的な文法について、意味、形、正しい使い方がわかる。				
2. 適切な文法を使って、自分が表現したいことを話したり、書いたりできる。				
3. 生活の中や、自分が興味を持っている分野でよく使われる表現は、ある程度正確に使うことができる。				
講義概要【Lecture Outline】				
このクラスは、文法の復習を中心に、初級や中級前半レベルの文法を勉強するクラスです。				
その文法が、どのような形で、どのような意味で使われているかを確認し、さまざまなスタイルの問題で練習しながら、理解を深めます。				
講義方法【Lecture Method】				
文法の形式、意味について学生が説明したり、話し合ったりして正しい使い方を確認します。その後で、選択する問題、読む問題、文を作る問題など、いくつかの問題で練習します。また、授業の最初に前回の文法の復習クイズをします。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
復習クイズの準備をしてください。読む問題や文を作る問題を宿題にすることもあります。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
授業参加度：10%、宿題：10%、復習クイズ：20%、中間テスト：30%、期末テスト：30%				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】				
プリントを配ります。				
参考文献【Recommended Literature】				

じゅぎょう し
授業でお知らせします。

受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】

がくせいどう し ぶんぽう ひょうげんほうほう いっしょ かんが はな あ
学生同士で文法や表現方法について一緒に考え、話し合うことがあります。クラスでの話し合い
には積極的に参加してください。

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP4A 視聴解)	1 単位	鎌田 美保
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
スピーチ、ニュース、会話などのポイントを聞き取る ポイントを聞き取るためのテクニックを学ぶ	2018 年度 第 1 学期	火 1
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2 と 2.1 の間ぐらいです。具体的には以下のようなことができるようになることが目標です。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 話し方や比較的ゆっくりで、はっきりしていれば、興味のある分野のスピーチや講演の重要な部分を理解することができる。 2. わかりやすい言葉で話されていれば、ニュースのポイントを理解することができる。 3. 興味のあることや身近な内容であれば、テレビ番組やニュースを見て、映像やテロップを頼りにしたり、辞書で調べたりしながら、だいたいの内容を理解することができる。 4. 母語話者が話している会話を聞いて、何について話しているかだいたい理解できる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスでは、ニュースやスピーチ、テレビ番組などを見て理解できるように、聴解のテクニックを学びます。視聴する内容は受講生の専門分野や興味、希望等から決めたいと思います。		
講義方法【Lecture Method】		
ニュースやスピーチを聞き取るための練習をし、テレビや動画などを見て、内容を理解する活動を行います。聞いた内容をグループやクラス全体で話し合い、理解を深めていきます。動画を見て問題に答えたり、聞いた内容をまとめたり、発表したりする活動もあります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業の時に指示します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業への参加度 (20%)、課題の提出、小テスト (20%)、中間試験 (30%)、期末試験 (30%)		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
ハンドアウトを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー 郁子著『日本語生中継一聞いて覚える話し方 (初中級編 2)』(くろしお出版)		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A (JEP4A 読解)	1 単位	久保 るみ		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】		
いろいろな日本語を読む	2018年度 第1学期	火曜日 2講時		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスは、CEFR の日本語レベルB1.1で、到達目標は、B1.2～B2.1ぐらいです。目標は、以下の3つです。				
<p>1. 留学生活で、自分に必要な案内、生活情報などの、自分に必要な情報を理解することができる。</p> <p>2. 身近でわかりやすいトピックの新聞記事、エッセイや、わかりやすい表現の小説を読むことができる。</p> <p>3. 新聞記事の身近なトピックの報告文(データを含む)を読んで、大切なポイントを理解することができる。</p>				
授業概要【Lecture Outline】				
日本の留学生活で必要な案内、生活情報などを読んで、自分に必要な情報を読み取る練習をしていきます。また、身近な話題のエッセイ、身近な場面の小説や漫画、新聞の身近な記事などを読んで、日本人の考え方や生活などを理解していきます。				
授業方法【Lecture Method】				
読むことが中心の授業です。生活情報を読むときに必要な語彙や表現、フォームなどを学んでいきます。そして、エッセイや新聞記事、小説、漫画などを読んでいくときに必要な読解テクニックも学んでいきます。一人一人の読解活動は、もちろん、クラスメートとの読解活動もします。読んだ情報を交換したり、読んだ内容について意見交換したりします。受身でなく、授業では、積極的に読んでいく態度が必要です。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
先生が指示する予習や復習は、必ずしてください。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
試験は、中間試験、期末試験をします。成績評価は、以下の2点で決定します。				
<p>(1) 中間・期末試験60%</p> <p>(2) 平常点(授業への参加度、復習クイズの成績など)40%</p>				
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】				
プリントを配布します。				
参考文献【Recommended Literature】				
授業時に紹介します。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
築しみながらたくさん日本語を読んでいきましょう。プリントを配布するので、プリントを整理するファイルを準備してください。				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本語A (JEP 4AB HR)	1 単位	稻垣 宏明	
サブテーマ【Sub-Theme】		開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
		第1学期	金・3
到達目標【Attainment objectives】			
例えば、音楽や映画などの抽象的または文化的話題について自分の考えが表現できる。問題の在処を説明できる。			
講義概要【Lecture Outline】			
各人の文化を紹介したり、日本文化や他の国・地域の文化を理解したりする活動を行います。			
講義方法【Lecture Method】			
各人のことや各人の国・地域のことを紹介してもらいます。学外に出て、京都の町をみて発見したことを話したり書いたりしてもらいます。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
課題を調べたりまとめたりしてもらうことがあります。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
課題や発表をもとに評価します。課題：80% 発表：20%ぐらいですが、それぞれ回数により変更あり。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
授業時に指示します。			
参考文献【Recommended Literature】			
同上			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
クラスを越えた交流が深められたらいいですね。			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本語 A (JEP4B 総合)	4 単位	よしだ ふみ 吉田芙美	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
日本の社会や文化について知り、考える		2018年度 第1学期	月1・2 金1・2
到達目標【Attainment objectives】			
<p>このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2と2.1の間ぐらいです。具体的には以下のようなことができるようになることが目標です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常の場面で、母語話者同士の会話や、比較的長い文章の中から必要な情報を得ることができる。 十分に準備してあれば、自分の専門範囲や興味のあることがらについて、明確なプレゼンテーションを行うことができる。 会話や議論の中で、言われたことをたいてい理解でき、自分の意見や考えを簡単に理由を挙げて説明し、理解させることができる。 身のまわりで起きているさまざまなことについて、興味、関心を広げることができる。 			
授業概要【Lecture Outline】			
<p>この授業はトピックを中心に行い、テキストを読みながら課題について考えたり、クラス内で意見交換したりしながら自分の考えを表現していきます。クラスの内外でのさまざまな活動を通してクラスメートや教室の外の人と積極的に関わることで、日本語の運用能力を高め、日本社会や文化について考えを深めます。</p>			
授業方法【Lecture Method】			
<p>この授業は次のように進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> トピックについて書かれた文章や音声から情報を得、日本の社会や文化についての理解を深める。 そこで使われたことばや文法について学習する。 トピックについてクラスメートと話し合い、意見を交換しながら考えを深める。 トピックに関連したことについて自分で調べ、分析し、まとめ、発表する。 クラスメートの発表を聞いて考えたことを話し合い、さらに考えを深める。 			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
<ol style="list-style-type: none"> テキストには難しいことばが多く出てくるので、指示した部分は必ず予習をしてください。 テキストのことばや文法・内容についての確認クイズをします。しっかり復習をしてください。 ワークシートなどの課題を出しますので、提出してください。 授業時間外に調査やインタビューをしたりすることができます。 <p>詳しくは授業時に指示します。</p>			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
<p>確認クイズ 15% ワークシートなどの課題 15% 定期試験（中間・期末）30% レポート 30% 授業参加度 10%</p>			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
<p>東京外国語大学留学生日本語教育センター『出会い』ひつじ書房 (3000円+税)</p>			
参考文献【Recommended Literature】			
<p>授業時に紹介します。</p>			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
<p>ペアやグループで活動したり話し合ったりします。協力的な態度で積極的に参加してください。</p>			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
アカデミック・ジャパニーズ JEP4B	1 単位	戎妙子（えびす たえこ）
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
現代社会にある問題について考えよう。	第1学期	木曜日 1講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.3くらいです。目標は以下のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> 社会問題に関する構成がわかりやすい文章を、質問を考えながら読むことができる。 文章の内容の大切な点を整理して、短くまとめることができる。 グラフ等を見て自分が読み取ったことをまとめたり、口頭で説明したりすることができる。 ある話題について、賛成か反対か理由を示して意見文を書くことができる。(500字程度) ある話題について、課題文を読んで型にそった小論文を書くことができる。(800~1000字程度) 		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスは大学の授業を受けるために必要なスキルを学ぶクラスです。特に、①質問作り、②文章の要約、③グラフの読み方、④意見文の書き方、⑤基本的なレポートの書き方、⑥説明する時に配る資料の作り方などの練習をします。		
講義方法【Lecture Method】		
クラスでは以下の練習をする予定です。①文章を理解するために必要な単語・表現などの練習、②質問をつくる練習、③情報を整理する練習、④要点をとらえて短くまとめる練習、⑤書き言葉の練習や引用の仕方などレポートを書くために必要な練習、⑥説明する時に配る資料を作る練習。		
自分一人でまたはクラスメイトと話し合いながら課題に取り組んでもらいます。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ol style="list-style-type: none"> 資料を読んで、わからない単語があつたら意味を確認しておいてください。 大切な言葉や表現について確認クイズをする予定ですので、復習をしっかりしてください。 要約をしたり、短い意見文、説明用のアウトラインを書く課題があります。 最終レポートを書くために情報を集める課題があります。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
言葉や表現の確認クイズ 10% 要約クイズ 20% グラフの読み取り 10% ループリック（課題 20% 発表・コメント 20% 最終レポート：20%）		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
特にありません。授業の時に資料を配ります。自分できちんとファイルをしてください。		
参考文献【Recommended Literature】		
必要な場合は、授業の中でお知らせします。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
アカデミックな勉強を日本語でするためには、漢字の言葉やカタカナ語を増やす必要があります。これは少し大変ですが、ステップアップするためにどんどんチャレンジしてください。クラスメイトと協力して課題に取り組む活動を予定していますので、積極的に参加してください。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP4B 口頭表現)	1 単位	もりた みさと 森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	2018 年度 第 1 学期	木曜 1 講時
到達目標【Attainment Objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B1.2 と 2.1 の間ぐらいです。具体的な目標は以下のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> 自分の関心のあること、身近な話題や社会問題について、意見を言ったり、相手に説明したりすることが自信を持ってできる。また、どうしてそう思うのか、ある程度理由も言うことができる。 自分の興味があること、よく知っている話題について、準備していれば、はつきりとわかりやすいプレゼンテーションができる。 もし相手が答えを早口で言ったり、長かったりすると、時には繰り返しを求めることがあるが、情報をチェックし、確認しながら用意されたインタビューをやり遂げることができる。 何かを決めるような場面で、自分の案を提示したり、さまざまな案を比べたりしながら、議論することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
このクラスは、インフォーマルな場面、フォーマルな場面でのディスカッション、インタビュー、口頭発表で必要なスキルを、実践を通して学ぶクラスです。主に、JEP4B の総合クラスで学んだことを発展させた内容で、ディスカッション、インタビュー、口頭発表、ロールプレイなどを行います。		
講義方法【Lecture Method】		
ディスカッション、インタビュー、口頭発表などで必要な「意見を言う」「説明する」「質問する」「確認する」「あいづちを打つ」場合などの表現を学び、練習します。そして、実際に日本人学生にインタビューしたり、発表を聞いてもらったりします。フィードバック、評価のために、活動の様子をビデオに撮ることもあります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業時間外に資料を調べたり、発表の準備をしたりする課題を出します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業内活動 ^{*1} (60%)、課題提出 (10%)、授業参加度 ^{*2} (10%)、期末試験 (20%) をループリックで評価。		
^{*1} 一部の活動を日本人学生に評価してもらうことがあります。		
^{*2} 授業中、授業に関係のないこと（携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど）をした場合、授業参加度から減点します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
総合で使用するテキスト（東京外国語大学留学生日本語教育センター『出会い』ひつじ書房）		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の中で紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業内の活動には積極的に参加してください。		
JEP4B 総合で勉強した内容を発展させる活動を予定しているので、総合と一緒に履修したほうがいいです。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP 4B 文章表現)	1 単位	三谷 閑子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
読み手を意識しながら、いろいろな種類の文章を書いてみよう	2018 年度 第 1 学期	水曜日 1 時間目
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B1.3くらいです。以下は具体的な目標です。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 相手を意識して、依頼やお礼のメールを書くことができる 2. 自分の意見を読む人がわかるように書くことができる 3. 短くても、指定された話題についてまとまりのある文章を書くことができる 4. 自分の関心がある話題について、接続詞を使い、段落に注意して 800 字ほどのまとまりのある文章を書くことができる 		
講義概要【Lecture Outline】		
書くことが中心の授業です。読む人を意識して、目的と場に合った文章の種類や表現を選ぶ力を身につけます。メール、説明文、意見文、報告文などを書く練習をしながら、読む人にとってわかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを考えていきます。		
講義方法【Lecture Method】		
テーマに関連したものを読んだり、書く内容についてディスカッションしたりして文章を書きます。フィードバックを受けて、どう直せばよいのかを考えます。学生同士でお互いに書いたものを読み合って感想を言い、気づいた点を話し合うこともあります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
文章を書くための情報を集める宿題や、文章を書く宿題を出すことがあります。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
平常点（授業参加度）：10%、宿題：10%、授業での課題文：60%、期末課題：20%		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
プリントを配ります。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業でお知らせします。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
クラスメートとの話し合いは書くときの助けになります。クラスでの意見交換には積極的に参加してください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP4B 文法)	1単位	たちかわ まきえ 立川真紀絵
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
中級文法	2018年度 第1学期	水2
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2と2.1の間ぐらいです。具体的な目標は、次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中級レベルの日本語文法について、形式、意味、使い方がわかる。 生活の中や自分が興味をもっている分野以外の文章でも、文法の意味を確認しながら、正確に読むことができる。 文法を適切に使って話したりしたり、書いたりして、自分が表現したいことを明確に表現することができる。 		
授業概要【Lecture Outline】		
<p>このクラスは、中級レベルの文法を勉強するクラスです。その文法が、どのような形で、どのような意味で使われているかについて学習し、問題で練習しながら、理解を深めます。</p>		
授業方法【Lecture Method】		
<p>文法の形式、意味について学生同士で説明したり話し合って、正しい使い方を学習します。その後、選択する問題、読む問題、文を作る問題など、様々なタイプの練習問題を解きます。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>読む問題や文を作る問題を宿題にすることがあります。また、授業の最初に前回の文法の復習クイズをすることもあります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>宿題：10%、復習クイズ：20%、中間テスト：30%、期末テスト：40%</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>『学ぼう！にほんご 中級』日本語教育教材開発委員会（編著）、専門出版、1,800円+税</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業でお知らせします。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業では学生同士で、日本語だけでなく皆さんの言語の文法・表現方法についてディスカッションし、一緒に考えます。積極的に授業に参加してください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
にほんご 日本語A (JEP 4 B 視聴解)	1 単位	くぼ 久保 るみ
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
にほんご かいわ こうぎ 日本語の会話、講義、ニュースを聞く	2018年度 第1学期	かようび 火曜日 1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの到達目標は、日本語レベルCEFRでB1.2~2.1の間ぐらいです。具体的には、以下の3つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の周りでの長い会話や議論の要点を理解できる。 個人的に興味のあったり身近な話題で、はっきりした話し方のものならば、放送されたインタビュー、短い発表、ニュースレポートなどを理解することができる。 自分の専門の話題で、わかりやすいものならば、話を理解できる。 		
授業概要【Lecture Outline】		
<p>大学への留学生活で必要とされる聞く能力を高めることを目指します。学生同士の会話や議論を理解し、会話や議論に参加するための聞く技能や、身近で興味のある話題のテレビニュースや番組、講演、インタビュー、講義などを聞く技能を高めることを目指します。</p>		
授業方法【Lecture Method】		
<p>テキストのCDやテレビ番組などを、教師作成プリントなどを使って、基本的な表現を学びながら、視聴し、ポイントをつかみ、音声を何度も確認していくことで、日本人の話し方に慣れていきます。自己評価チェックリストを使って自己評価し、何ができないか、何ができるぐらいできるようになったかを確認します。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>授業内の聞く練習だけでは、足りませんので、宿題などを通じて、積極的に日常生活でも聞く機会を増やしていきましょう。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>最終試験を実施します。成績評価は、以下の2点で決定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中間・期末試験60% 平常点(授業への取り組み方、宿題や課題など) 40% 		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>プリントを配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業時に紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>楽しくてたくさん日本語を聞いていきましょう。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A (JEP4B 読解)	1 単位	鎌田 美保
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
チラシ、ネットなどから留学生活に必要な情報を得る さまざまなタイプの文章を読み、読解テクニックを伸ばす	2018 年度 第 1 学期	火2
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの日本語レベルの到達目標は、CEFR B1.2 と 2.1 の間ぐらいです。具体的には以下のようなことができるようになることが目標です。		
<ol style="list-style-type: none"> 長いテクストにざっと目を通して、必要な情報を探し出すことができる。 留学生活で読む機会がある掲示やお知らせなどを読んで、ポイントを理解することができる。 自分の興味のある分野の文章を読んで、だいたいの意味を理解することができる。 資料や辞書を参考にしたりしながら、小説やエッセイなどを読み続けることができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
さまざまなテクストタイプの文章を読み、速読などの読解のテクニックを練習します。ある程度まとまった文章を読み、内容理解をするための活動を行います。読む文章は新聞記事、サイト記事、小説、エッセイ、マンガ、留学生活に関係する文章などです。文章の内容やテーマは受講生の専門分野や興味、希望等から決めたいと思います。		
講義方法【Lecture Method】		
文章を一人ひとりが読み、理解した内容をグループやクラス全体で話し合い、理解を深めていきます。文章を読んで問題に答えたり、読んだ内容をまとめたり、発表したりする活動もあります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業の時に指示します。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業への参加度(20%)、課題の提出、小テスト(20%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
ハンドアウトを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の時に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<ul style="list-style-type: none"> ジャンルに関係なく、読むことを楽しむことと、読むことや他の学生との話し合いを通して、さまざまな見方に気づいて、みんなの世界が広がることを期待します。 授業で習ったことを使って、留学生活をよりよいものにするために、たくさんの情報を探し出してもらいたいです。 		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP 5,6 総合】	2 単位	もりね寺 美智子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
学生自らがやりたい活動を決める	前期	金1・2講時
到達目標【Attainment Objectives】		
<p>このクラスの到達目標は、CEFR B2です。具体的には、以下のような目標が挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 流暢に自然に会話することができる。重要な点を強調し、関連事項を詳しく説明したり、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明したりできる。 自分の関心のある分野について、多くの情報源からの情報と論拠を統合して報告できる。 インタビューをなめらかに効果的に行い、相手の答えに応じて質問を変えて、より興味深い話を引き出すことができる。また、その内容を要約し、重要な点や関連する補足事項を加えて、記事を書くことができる。 日本文化や他学生の出身文化などの異文化と、自文化を理解するための、いくつかの視点を身につける。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>自分たちが学びたいことを学びたい方法で学ぶプロジェクトワークを基本に行います。日本人や日本語資料からの情報収集、話し合い、メールでのやりとり、記事書きなどの総合的な活動を通して日本語の運用力を高め、日本社会や文化への理解を深めると同時に、自文化や異文化への理解を深めます。</p> <p>これまで、留学生や龍大生、その他日本人にインタビューをして記事を書いたり、テーマを決めてビデオ映像を作ったり、NPOの人とイベントを企画したりしました。</p> <p>学生は、活動の前と後に自己評価をし、自分の課題や目標を意識します。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>活動型の授業です。教室外での体験や日本人との交流、共同作業、メールでのやりとり、インタビューなどを通して、気づいたことを振り返ったり話し合ったり、記事にしたり発表したりします。</p> <p>活動の前と後に自己評価をし、何ができないか、何ができるようになったかを確認します。でき上がった作品は、グローバルコモンズや HP に掲示したり、上映会を開いたりする予定です。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>調査やインタビューなど、授業時間外にする活動が多くあります。また、書く作業も宿題となることがあります。詳しくは、授業時に指示します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<ul style="list-style-type: none"> 課題（記事、レポート、発表など）：50% 最終課題：25% 平常点（提出物など）：25% 		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>ハンドアウトを配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業時に知らせます。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業では、ペアやグループで活動したり、話し合ったりすることが多くなります。個人的な活動だけでなく、グループ活動への積極的で協力的な参加態度が望まれます。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP5 ビジネス日本語】	1 単位	ふくだ 福田 えり
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
前期		
火 1 講時		
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの到達目標は、CEFR B2.1 くらいです。具体的な学習目標は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前と所属、性格、大切にしている価値観、過去の成功体験などを具体的なエピソードを交えながら分かりやすく伝えることができる。 理由や具体例を示しながら自分の意見を主張することができる。また相手のコメントをよく理解した上で、反応することができる。 企業からのメール内容を理解したうえで、伝えたい情報をわかりやすく返信することができる。 会社の企業説明VTRを見たり、新聞記事を読んだりして、発信者が伝えたい主要なメッセージを理解することができる。 状況や相手に応じた適切な言葉づかい、自信を持って言いたいことを伝えることができる。 自身やクラスメートのパフォーマンスを、評価基準にそって適切に評価することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>将来日本と関係のある仕事に就きたい、ビジネス場面で必要となる日本語や日本のマナーについて学びたい学生が対象です。これまで皆さんがあなたに身につけてきた「読む」「書く」「聞く」「話す」力をビジネス場面のコミュニケーションに応用して行きます。今期は、オフィシャル場面の自己紹介、メールやりとり、面接に加えて、会社説明のビデオを見たり、日本で働く元留学生の話を聞いたり、新聞記事を読んだりして、仕事を取り巻く日本の社会情勢を理解する活動を予定しています。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>実際のコミュニケーションタスクを想定した練習をします。</p> <p>ピアレビューを取り入れ、自己評価だけでなく、互いのパフォーマンスを評価します。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>事前に動画を見てきてもらうなどの予習や、授業中に作業が終わらなかつた場合は授業外に作業してもらうことがあります。詳しくは授業中にお伝えします。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>授業中のパフォーマンスおよび提出物(90%)、平常点(10%)</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>必要に応じて授業中に配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>必要に応じて授業中に提示します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>みなさんの将来の夢に少しでも近づける学びがあることを願いながら、積極的な参加をお待ちしています。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP5 関西方言】	1 単位	八木 和枝
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
		前期 水1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの目標は、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語の多様性について認識し、その理由や背景について理解できる。 京都弁を含む関西方言の特徴、言語コミュニケーションの文化的側面が理解できる。 ゆっくりはっきり話されていれば、関西方言を使った指示や簡潔な説明が理解できる。 身近な話題や経験した内容であれば、関西方言話者の会話を聞いて、理解できる。 学生同士の関西方言を使った会話に、詳しい説明を求めたり、自分の理解したことを確認したりしながら参加できる。 標準語と関西方言の異同について認識し、場や参加者に応じて使い分けを心がけることができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>この授業では、関西方言の学習をします。日本語の多様性を知ることや関西方言についての知識を得ることだけでなく、実際に聴いて理解するための力や、会話に参加できるようになるための力を身につけます。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>前半は、関西方言の音声データを使い、聴解の練習を行います。その際、標準語との相違に着目しながら、関西方言の音声、語彙、文法、談話における特徴、便利な言い回し、等について整理します。後半は、実際にキャンパスで話されている関西方言の実態を調査する活動を行う予定です。</p> <p>フィードバックや評価のために活動を録音・録画することがあります。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>前半は、毎回、授業の初めにクイズを行います。授業で習った文法や語彙などは、必ず復習して覚えましょう。活動の準備などは、授業時間外に行う可能性があります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>クイズ：30%</p> <p>聴解試験：30%</p> <p>方言調査活動：40%</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
ハンドアウトを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業中に説明します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業では、ペアやグループで話し合ったり、活動に取り組んだりします。関西方言に関する気づきの共有や調査についての提案など、積極的な参加が必要です。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】			
日本語 A 【JEP5 アカデミックジャパニーズ】	1 単位	久保 壱			
クリティカル・シンキングを身につける	前期	木2講時			
到達目標【Attainment objectives】					
このクラスが目標とするレベルは、CEFRでB2.1程度です。その言語能力をベースに、以下の3点に取り組み、思考力を養います。					
<p>1. ある物事に対して、いくつかの観点を持って発想することができる。</p> <p>2. 論理を意識しながら、アイデアを整理することができる。</p> <p>3. 口述または記述によって、自らの考えをわかりやすく相手に伝えることができる。</p>					
講義概要【Lecture Outline】					
レポート課題や議論をはじめ、大学や大学院における学術的な活動には、「あるテーマについての問題に対し、深い思考をもって取り組み、解決する力」が必要となる。この講義では、特にクリティカル・シンキング、つまり、批判的思考力の養成を目的として、ディスカッションやレポート作成に取り組む。					
講義方法【Lecture Method】					
前期はディスカッション、後期はレポート課題やプレゼンテーションによってクリティカル・シンキングのスキルを養う。語彙や文法の習得を主な目的とした授業ではないが、必要なものに関しては随時指導する。					
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】					
授業中に指示する。					
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】					
授業中の活動（積極性や貢献度など）50%、宿題20%、定期試験または課題30%によって評価する。					
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】					
必要に応じて授業で紹介する。					
参考文献【Recommended Literature】					
なし					
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】					
わからないことを、わからないままにしないようにしましょう。質問したり、自分で（または友達と）調べたりするなど、方法はたくさんありますが、自発的な努力がなければ、いつまでも問題は解決しません。					

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP5 口頭表現】	1 単位	ひさつぎゅうご 久次優子
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】
		前期
到達目標【Attainment objectives】		水 2 講時
<p>このクラスの到達目標は CEFR B2.1 くらいです。具体的には次のような目標が挙げられます。</p> <p>【会話・ディスカッション】</p> <ol style="list-style-type: none"> その場や会話の参加者に応じたコミュニケーションができる 自分が経験したことや重要な出来事、関心のある事柄の詳しい情報を伝えることができる よく知っているテーマについて、根拠とともに自分の意見を言うことができる。 相手の意見に対し、配慮のあるフィードバックができる。 <p>【プレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の関心のあるテーマで聞き手を意識したわかりやすいプレゼンテーションができる 賛成、反対の理由を挙げたり、ある事柄の利点と欠点を示したりすることができる 聞き手からの質問に対して適切に答えることができる 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>自分のこと、社会のことなど、関心のある身近なテーマについて、クラスメイトに発表したり、ディスカッションしたりします。1つのことを文化的背景や考え方の異なる人たちと話すことによって、色々な物の見方をることができます。のために、必要な情報の伝え方、意見の述べ方も練習していきます。</p> <p>授業で話したテーマについては、自信を持って話せるようになってほしいと思います。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>まず、自分の経験や、くわしい情報を人に伝えられる力を身に付けます。その後、興味のあるテーマについてプレゼンテーションやディスカッションを行います。プレゼンテーションはグループで協働して行います。それらは、フィードバックや評価のためにビデオに撮ることもあります。プレゼンテーション、ディスカッションには、日本人学生にも参加してもらいたいと考えています。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>発表の準備や資料の収集は授業時間外です必要があります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>授業内活動(70%)、期末試験(口頭試験)(20%)をルーブリックで評価、課題提出(10%)</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>ハンドアウトを配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業のときに紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>自分のことをクラスメイトに話したり、グループのメンバーと一緒にプレゼンテーションをしたりするので、クラスメイトと協働して活動を進めていく態度が望されます。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP 5 文章表現】	1 単位	もりわき 森脇 美智子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
いろいろなタイプの文章を書く	前期	月 1 講時
到達目標【Attainment Objectives】		
到達目標は CEFR B2.1 程度です。文法を正しく使い、興味のある話題や賛成・反対意見を、理由を示しながら書くこと、集めた情報などをまとめることができます。具体的には以下の力をつけることを目指します。		
<p>1. 相手の立場や気持ちを考えたメールを書くことができる。</p> <p>2. アンケート回答、伝言メモ、VTR視聴メモなどを、文章の目的を考えながら書くことができる。</p> <p>3. あるテーマについて賛成・反対の意見を、理由を示して書くことができる。</p> <p>4. 興味あるテーマについて、資料収集・調査をして A4用紙 2 枚程度のレポートにまとめができる。</p> <p>① 句読点「、」「。」や接続詞、指示代名詞などを正しく使って書くことができる。</p> <p>② レポートの構成を考えて、最初から最後まで矛盾がない文章を書くことができる。</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
文章を書く際は、文を書く目的を達成する必要があります。相手がある文章であれば、失礼や誤解がないようにしなければなりません。この授業では、メール、アンケート回答、伝言メモ、意見文など、いろいろな書く活動を、文章の目的・読み手を意識しながら行います。最終課題としてレポートも書きます。		
講義方法【Lecture Method】		
いろいろなタイプの文章を書く活動をします。書いたものはクラスで読み合って、よい点・改善点を指摘し合います。それから、書くルールを確認します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業内での活動のために、事前に課題を出すことがあります。また、日本で生活する中で生じた疑問、解決方法などを考える習慣をつけて、レポートのテーマ決定の参考にしてください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
受講姿勢及び授業貢献度 20%、課題 30% (提出物の評価 20%、提出 10%) 中間・期末課題 50% (それぞれ評価 20%、提出 5%)		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
ハンドアウトを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業中に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
個人的な活動に加え、クラスでの話し合いやクラスメートとの活動にも積極的かつ協力的に参加することが求められます。課題提出期限は必ず守ってください。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本語 A【JEP5 文法】	1 単位	小松 知子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
		前期	火 2 講時
到達目標【Attainment Objectives】			
<p><分析力> 日本語文法を分析する方法を知つており、分析できる</p> <p><言語能力> CEFR B2.1程度 誤解につながるような間違いを犯さないほどの高い文法運用力を身につける 文法の整理や分析をする話し合いの中で、自分の考えを説明し、仮説を立てたり、他の人が立てた仮説を評価したりすることができる</p>			
講義概要【Lecture Outline】			
これまで学んだ日本語文法を「形」「意味・機能」「使い方」を考えながら整理します。そして、自分の母語や他の言語と比較したり類義表現との違いを比較したりして分析します。今まで疑問に思っていたことを一緒に考え、使いこなせるようにします。 取り上げる項目は、重要な基本項目の他、受講生の希望を参考に決めます。先学期は、「構造文型・表現文型」「『は』と『が』」「自他動詞」「ヴォイス(受身・使役・使役受身)」などを勉強しました。 日本語能力試験対策の勉強はしません。			
講義方法【Lecture Method】			
講義形式ではなく、主にグループ活動で話し合いながら問題を解き、考える発見型の授業です。 2回に1回程度、復習クイズをします。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
自分で考えてくる宿題の他、実際にどのように使われているかネットで調べたり、日本人に聞き取り調査したりする宿題もあります。クイズをするので復習も必要です。詳しくは、授業時に指示します。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
宿題：20%、クイズ：40%、期末試験：40% 期末試験の範囲は、1学期間学んだ全項目です。クイズや試験の後にフィードバックをします。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
ハンドアウトを配布します。			
参考文献【Recommended Literature】			
授業時に知らせします。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
授業では、ペアやグループで活動したり、話し合ったりすることが多くなります。個人的な活動だけでなく、グループ活動にも積極的、協力的に参加してください。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP5 視聴解】	1 単位	八木 和枝
サブテーマ【Sub-Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	前期	木 1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B2.1 くらいです。具体的には、以下のような目標があります。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. テレビのニュースを見て、内容が理解できる。 2. 社会的な問題に関するニュースを見て、社会の現状や問題の背景などを理解することができる。 3. あまりなじみのない分野であっても、映像やテロップを手がかりにしたり、辞書で専門用語を調べたりしながら、その内容が理解できる。 4. はっきり話された標準語であれば、生のスピーチや討論を聞いて、語られた内容や話し手が聴衆に伝えたいことなどがだいたい理解できる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
この授業では、最新のニュースや専門家のスピーチなどを視聴します。		
講義方法【Lecture Method】		
<p>①ニュース：</p> <p>最新のニュースを教室で視聴して内容を理解する活動や、各自が自主的に視聴してきたニュースの詳細を整理して紹介する活動を行います。</p> <p>②専門家のスピーチや討論：</p> <p>スピーチや討論を聞きながら、キーワードをメモしたり、話の流れを整理したりして、内容を理解する活動を行います。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
テレビのニュースを見て、メモを作ることを宿題にします。また、視聴してきたニュースについて、授業の中で紹介する時間を取ります。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>宿題：40%</p> <p>中間試験：30%</p> <p>期末試験：30%</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
ハンドアウトを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
授業中に説明します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
授業では、グループで話し合ったり、活動に取り組んだりします。積極的な参加が必要です。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP5 読解】	1 単位	えびす たえこ 戎 妙子
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】
型や表現について考え方ながら読む		前期
到達目標【Attainment objectives】		
<p>このクラスの到達目標は CEFR B2.1 程度です。具体的には以下の力をつけることを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> わかりやすい説明文を短時間で読んで、要点を理解したり、必要な情報を探し出すことができる。 わかりやすい説明文を読んで、主要なテーマや論理の構造を把握することができる。 短い隨筆文（エッセー）を読んで、出来事を整理しながら、筆者の心情や見解を理解することができる。 筆者の言葉や表現選びの工夫について考え方をめぐらすことができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>このクラスでは、たくさん文章を読むためのストラテジーを練習します。それから、異なるタイプの文章を、型を考えながら読む方法を学びます。授業では、主に「説明文」「隨筆文（エッセー）」を扱い、それぞれの特徴について考えたり、筆者の言葉の選び方について話し合ったりします。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>クラスでは以下の練習をする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 文章を理解するために必要な単語・表現などの練習 短い時間で文章を読んで、要点を捉えたり必要な情報を探し出す練習 論理構造や文章の構成を把握する練習 出来事の流れや登場人物の関係性を整理する練習 言葉・表現から登場人物の人柄や心情を理解する練習 言葉・表現の選び方の工夫について考える練習。 <p>自分一人でまたはクラスメイトと話し合いながら課題に取り組んでもらいます。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ol style="list-style-type: none"> 資料を読んで、様々な課題に取り組む必要があります。 資料を読んで、わからない単語があったら意味を確認しておいてください。 大切な言葉や表現について確認クイズをする予定ですので、復習をしてください。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>言葉や表現の確認クイズ 10% 中間理解度テスト 20% 期末理解度テスト 20%、ループリック（課題 30% 協働作業20%、）</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>特にありません。授業の時に資料を配りますので自分できちんと整理してください。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>必要な場合は、授業の中でお知らせします。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>文章を味わえるようになるためには、語彙を増やす必要があります。これは少し大変ですが、ステップアップするためにどんどんチャレンジしてください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A【JEP5,6 HR】	1 単位	こまつ 小松 知子		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】		
	前期	金 3 講時		
到達目標【Attainment Objectives】				
いぶんのかのうりょく <異文化能力>	じゅうなんたかくてきしてん 異文化と自文化を理解するための柔軟で多角的な視点を持つ			
げんごのうりょく <言語能力> CEFR B2程度	じょうほううていきょう 実際の活動を通して、特に情報提供ややり方の説明をするときに、流暢で正確に効果的にごとばを使うことができ、聴き手に負担を与えない			
講義概要【Lecture Outline】				
じゅうなんたかくてきしてん JEP5 と JEP6 の学生の交流の場となる時間です。JEP5,6 の学生は、学部や日本語の授業を自由に選択して履修しているので、同じグループメンバーで集まる機会がほとんどありません。この時間を共有し、さまざまな体験を通して、学び合います。				
じゅうなんたかくてきしてん 授業では、学生が毎回順番に担当者になって、自分の得意なことを教えたり、活動を仕切ったりします。例えば、これまでには、自分の言語を教えたり、ゲームやダンス、武道と一緒にやったり、折り紙やミサンガ、扇などを作ったり、短編映画を見て意見交換したりしました。時には、日本人学生に先生になってもらったり、季節の花や紅葉を見に行って俳句を作ったりすることもあります。				
講義方法【Lecture Method】				
りしゅう 第1回目は、履修のし方や授業内容についての相談を受け、担当者を決めます。2回目以降は、順番に担当者が活動を仕切り、実施します。受講者数によっては、2人で1つの活動を担当することも、1人で2回担当することもあります。				
まちや 町家キャンパスを使ったり、大学の外に遠足に行ったりすることもできます。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
じゅんび 担当になった人は、授業までに準備をします。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
担当、参加：100%				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】				
特になし				
参考文献【Recommended Literature】				
特になし				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
じゅんびほうぼうひつよう 準備の方法や必要なものについて相談がある場合は、なるべく早めに小松まで言いに来てください。担当者としても参加者としてもグループ活動に積極的、協力的に参加してください。				

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP6 ビジネス日本語】	1 単位	ふくだ 福田 えり
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
	前期	火 2 講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスの到達目標は、CEFR B2.2 くらいです。具体的な学習目標は以下のとおりです。		
<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前と所属、性格、大切にしている価値観、過去の成功体験などを具体的なエピソードを交えながら分かりやすく伝えることができる。 理由や具体例を示しながら自分の意見を主張することができる。また相手の発言内容をよく理解した上で、相手の意見や立場を考慮した反論ができる。 企業からのメール内容を理解したうえで、自分の伝えたい情報をわかりやすく的確に返信することができる。 会社の企業説明VTRを見たり、新聞記事を読んだりして、発信者が伝えたい主要なメッセージや背景情報を理解することができる。 状況や相手に応じた適切な言葉づかいで、自信を持って言いたいことを伝えることができる。 自身やクラスメートのパフォーマンスを、評価基準にそって適切に評価することができる。 		
講義概要【Lecture Outline】		
将来日本と関係のある仕事に就きたい、ビジネス場面で必要となる日本語や日本のマナーについて学びたい学生が対象です。これまで皆さんがあなたが身につけてきた「読む」「書く」「聞く」「話す」力をビジネス場面のコミュニケーションに応用して行きます。今期は、オフィシャル場面の自己紹介、メールやりとり、面接に加えて、会社説明のビデオを見たり、日本で働く元留学生の話を聞いたり、新聞記事を読んだりして、仕事を取り巻く日本の社会情勢を理解する活動を予定しています。		
講義方法【Lecture Method】		
実際のコミュニケーションタスクを想定した練習をします。 ピアレビューを取り入れ、自己評価だけでなく、互いのパフォーマンスを評価します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
事前に動画を見てもらいうなどの予習や、授業中に作業が終わらなかった場合は授業外に作業してもらうことがあります。詳しくは授業中にお伝えします。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業中のパフォーマンスおよび提出物 (90%)、平常点 (10%)		
テキスト (書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
必要に応じて授業中に配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
必要に応じて授業中に提示します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
みなさんの将来の夢に少しでも近づける学びがあることを願いながら、積極的な参加をお待ちしています。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A 【JEP6 関西方言】	1 単位	八木 和枝		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】		
	前期	水2講時		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスの目標は、以下の通りです。				
<ol style="list-style-type: none"> 日本語の多様性について認識し、その理由や背景について理解できる。 京都弁を含む関西方言の特徴、言語コミュニケーションの文化的側面が理解できる。 はっきり話されていれば、関西方言を使った指示や短い講義が理解できる。 身近な話題や経験した内容でなくとも、関西方言話者の会話を聞いて、おおむね理解できる。 同世代だけでなく、世代差のある関西方言話者の会話にも、多様な方略を使いながら参加できる。 標準語と関西方言の異同について認識し、場や参加者に応じて使い分けを心がけることができる。 				
講義概要【Lecture Outline】				
この授業では、関西方言の学習をします。日本語の多様性を知ることや関西方言についての知識を得ることだけでなく、実際に聴いて理解するための力や、会話に参加できるようになるための力を身につけます。				
講義方法【Lecture Method】				
前半は、関西方言の音声データを使い、聴解の練習を行います。その際、標準語との相違に着目しながら、関西方言の音声、語彙、文法、談話における特徴、便利な言い回し、等について整理します。後半は、大学周辺で「京ことば」の実態を調査する活動を行う予定です。				
フィードバックや評価のために活動を録音・録画することができます。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
前半は、毎回、授業の初めにクイズを行います。授業で習った文法や語彙などは、必ず復習して覚えましょう。活動の準備などは、授業時間外に行う可能性があります。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
<p>クイズ：30%</p> <p>聴解試験：30%</p> <p>方言調査活動：40%</p>				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】				
ハンドアウトを配布します。				
参考文献【Recommended Literature】				
授業中に説明します。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
授業では、ペアやグループで話し合ったり、活動に取り組んだりします。関西方言に関する気づきの共有や調査についての提案など、積極的な参加が必要です。				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP6 アカデミックジャパニーズ】	1 単位	久保 圭
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
クリティカル・シンキングを身につける	前期	木1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
このクラスが目標とする言語能力レベルは、CEFR で B2.2 程度です。その言語能力をベースに、以下の3点に取り組み、思考力を養います。		
1. ある問題に対し、多角的な側面から観察・アプローチができるようになる。 2. 自らの考えを、一貫性や論理性をもたせながら構築することができる。 3. 口述または記述によって、自らの考えをわかりやすく相手に伝えることができる。		
講義概要【Lecture Outline】		
レポート課題や議論をはじめ、大学や大学院における学術的な活動には、「あるテーマについての問題に対し、深い思考をもって取り組み、解決する力」が必要となる。この講義では、特にクリティカル・シンキング、つまり、批判的思考力の養成を目的として、ディスカッションやレポート作成に取り組む。		
講義方法【Lecture Method】		
前期はディスカッション、後期はレポート課題やプレゼンテーションによってクリティカル・シンキングのスキルを養う。語彙や文法の習得を主な目的とした授業ではないが、必要なものに関しては隨時指導する。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業中に指示する。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
授業中の活動（積極性や貢献度など）50%、宿題 20%、定期試験または課題 30%によって評価する。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
必要に応じて授業で紹介する。		
参考文献【Recommended Literature】		
なし		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
わからないことを、わからないままにしないようにしましょう。質問したり、自分で（または友達と）調べたりするなど、方法はたくさんありますが、自発的な努力がなければ、いつまでも問題は解決しません。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A 【JEP6 口頭表現】	1 単位	久次優子		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】		
	前期	水 1 講時		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスの到達目標は CEFR B2.2 くらいです。具体的には次のような目標が挙げられます。				
【会話・ディスカッション】				
1. 自分がよく知っていることだけではなく幅広いテーマについて、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使って、自分の考えを論理的に話すことができる				
2. 相手の意見に対し、配慮のあるフィードバックができる				
3. その場や会話の参加者に応じた自然なコミュニケーションができる				
【プレゼンテーション】				
4. 関心のあるテーマで、明確かつ体系的にプレゼンテーションが展開できる				
5. 要点とそれを支える関連情報をしっかりと伝えることができる				
6. 聞き手からの質問に対して柔軟に対応することができる				
講義概要【Lecture Outline】				
自分のこと、社会のことについて、幅広いテーマでクラスメイトに発表したり、ディスカッションしたりします。1つのことを文化的背景や考え方の異なる人たちと話すことによって、複眼的に物事を見るることができます。また、そのときに、ただ伝わればよいというのではなく、正確かつ、効果的に言葉を使い、自分らしく表現することを目指します。				
取り上げたテーマについては自信を持って話せるようになってほしいと思います。				
講義方法【Lecture Method】				
まず、経験したことや出来事の自分にとっての意味、社会の動きや制度などを確実に人に伝えられるように練習します。その後、今問題に思っていることや、不思議に思っていること、興味のある社会問題についてプレゼンテーションやディスカッションを行います。プレゼンテーションはグループで協働して行います。それらは、フィードバックや評価のためにビデオに撮ることもあります。プレゼンテーション、ディスカッションには、日本人学生にも参加してもらいたいと考えています。				
講義方法【Lecture Method】				
発表の準備や資料の収集は授業時間外でする必要があります。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
授業内活動(70%)、期末試験(口頭試験)(20%)をルーブリックで評価、課題提出(10%)				
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】				
ハンドアウトを配布します。				
参考文献【Recommended Literature】				
授業のときに紹介します。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
自分のことをクラスメイトに話したり、グループのメンバーと一緒にプレゼンテーションをしたりするので、クラスメイトと協働して活動を進めていく態度が望まれます。				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP6 文章表現】	1 単位	もりわき 美智子 森脇 美智子
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】
いろいろなタイプの文章を書く		前期
到達目標【Attainment objectives】		
<p>到達目標は CEFR B2.2 程度です。高い文法力・書くルールを身につけ、あるテーマについて根拠を示し重要な点を強調するなどして、説得力ある文章やレポートを書くことが目標です。具体的に以下の力をつけることを目指します。</p> <p>1. 相手の立場や気持ちを考慮したメールを書くことができる。 2. アンケート回答、講義メモ、エッセイなどいろいろな文章を、目的を考えて書くことができる。 3. 社会問題について、読者を説得できるよう根拠を示しながら自分の考えを書くことができる。 4. 興味あるテーマについて、資料収集・調査をして、図表を示しながら A4用紙4枚程度のレポートにまとめることができる。</p> <p>①句読点「、」「。」や接続詞、指示代名詞などを正しく使って書くことができる。 ②レポートの構成を考えて、最初から最後まで矛盾がない文章を書くことができる。 ③アカデミックな表現を身につけることができる。</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>文章を書く際、内容が相手に伝わるだけでなく失礼や誤解がないようにしなければなりません。この授業では、メール、アンケート回答、講義メモ、意見文など、いろいろな書く活動を、文章の目や読み手を意識しながら行います。また、最終課題としてレポートも作成します。文レベルでは、アカデミックな表現が身につくよう練習をします。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>いろいろなタイプの文章を書く活動をします。また、アカデミックな語彙や表現を身につける練習もします。書いた文章をクラスメートと読み合い、良い点・改善点を指摘し合います。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>課題をするために事前タスクを課すことがあります。また、日本で生活する中で生じた疑問、解決方法などを考える習慣をつけて、レポートのテーマ決定の参考にしてください。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>受講姿勢及び授業貢献度 20% 、課題 30% (提出物の評価 20%、提出 10%) 中間・期末課題 50% (それぞれ評価 20%、提出 5%)</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>ハンドアウトを配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業中に紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>個人的な活動に加え、クラスでの話し合いやクラスメートとの活動にも積極的かつ協力的に参加することが求められます。課題提出期限は必ず守ってください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本語 A 【JEP6 文法】	1 単位	こまつ ともこ 小松 知子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	前期	火 1 講時
到達目標【Attainment objectives】		
<p>＜分析力＞</p> <p>日本語文法を分析する方法を知っており、分析できる</p> <p>＜言語能力＞CEFR B2.2程度</p> <p>たまに言い間違いをすることはあっても、ほとんど自分で修正できる高い文法駆使力がある 文法の整理や分析をする話し合いの中で、自分の考えを正確に表現でき、複雑な議論に対し、説得力をもって見解を示し、対応できる</p>		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>これまで学んだ日本語文法を「形」「意味・機能」「使い方」を考えながら整理します。そして、自分の母語や他の言語と比較したり類義表現との違いを比較したりして分析します。今まで疑問に思っていたことを一緒に考え、使いこなせるようにします。</p> <p>取り上げる項目は、重要な基本項目の他、受講生の希望を参考に決めます。先学期は、「構造文型・表現文型」「『は』と『が』」「自他動詞」「ヴォイス（受身・使役・使役受身）」などを勉強しました。 日本語能力試験対策の勉強はしません。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>講義形式ではなく、主にグループ活動で話し合いながら問題を解き、考える発見型の授業です。 2回に1回程度、復習クイズをします。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>自分で考えてくる宿題の他、実際にどのように使われているかネットで調べたり、日本人に聞き取り調査したりする宿題もあります。クイズをするので復習も必要です。詳しくは、授業時に指示します。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>宿題：20%、クイズ：40%、期末試験：40%</p> <p>期末試験の範囲は、1学期間学んだ全項目です。クイズや試験の後にフィードバックします。</p>		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
<p>ハンドアウトを配布します。</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業時に知らせします。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<p>授業では、ペアやグループで活動したり、話し合ったりすることが多くなります。個人的な活動だけでなく、グループ活動にも積極的、協力的に参加してください。</p>		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A 【JEP6 視聴解】	1 単位	八木 和枝		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】		
	前期	木2講時		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスの到達目標は、CEFR B2.2 くらいです。具体的には、以下ののような目標があります。				
1. 映画を視聴して、話の筋を追い、登場人物の立場や考え方、また、どのように葛藤や障壁を乗り越えたかなどを理解することができる。				
2. 映画の中で繰り広げられる会話のやり取りを聞いて、状況や内容を誤解することなく把握し、話者の意図や心情を理解することができる。				
3. ドキュメンタリーや教養番組を視聴して、社会の現状や問題の背景、また、話し手が提示する問題点や意見の主要点を正確に把握することができる。				
4. 視聴した映像の内容について、根拠や補足事項を挙げながら、自分の意見や感想を述べることができます。				
講義概要【Lecture Outline】				
この授業では、映画やドキュメンタリー、専門家のスピーチなどを視聴します。				
講義方法【Lecture Method】				
①映画やドキュメンタリー：				
長い映像資料を扱うことが多いため、授業ではまとまりで区切りながら視聴し、内容理解のための活動を行います。				
②専門家のスピーチ等：				
宿題で視聴してきた映像の内容について、整理して紹介したり、各自の論点で意見や感想を述べたりする活動を行います。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
映像資料を視聴して、メモを作ることを宿題にします。また、視聴してきた映像資料について、授業の中で紹介する時間を取ります。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
宿題：40%				
中間試験：30%				
期末試験：30%				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】				
ハンドアウトを配布します。				
参考文献【Recommended Literature】				
授業中に説明します。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
授業では、グループで話し合ったり、活動に取り組んだりします。積極的な参加が必要です。				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】		
日本語 A 【JEP6 読解】	1 単位	えびす 戎 妙子		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】		
型を意識しながら読む。言葉を味わいながら読む	前期	月 1 講時		
到達目標【Attainment objectives】				
このクラスの到達目標は CEFR B2.2 程度です。具体的には以下の力をつけることを目指します。				
1. 長めの説明文を読んで、主要なテーマや要点を把握し、短くまとめて人に説明することができる。 2. 小説を、出来事や登場人物の心情および関係性を整理しながら構成を考えて読むことができる。 3. 隨筆文（エッセー）を読んで、出来事を整理しながら筆者の心情や見解を理解することができる。 4. 筆者の言葉・表現選びの工夫について考え、自分の意見を示すことができる。				
講義概要【Lecture Outline】				
いい文章には型があります。このクラスでは異なるタイプの文章を、型を捉えながら読む方法について学びます。授業では、主に「説明文」「物語文」「隨筆文（エッセー）」を扱い、それぞれの構成の特徴について考えたり、筆者の言葉の選択について考えていきます。				
講義方法【Lecture Method】				
クラスでは以下の練習をする予定です。①文章を理解するために必要な単語・表現などの練習、②文章のテーマを理解し、短くまとめて話す練習、③論理構造や文章の構成を把握する練習、④出来事の流れや登場人物の関係性を整理する練習、⑤言葉・表現から登場人物の人柄や心情を理解する練習、⑥言葉・表現の選び方の工夫について考え、自分の意見を示す練習。				
自分一人でまたはクラスメイトと話し合いながら課題に取り組んでもらいます。				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
1. 資料を読んで、様々な課題に取り組む必要があります。 2. 資料を読んで、わからない単語があったら意味を確認しておいてください。 3. 大切な言葉や表現について確認クイズをする予定ですので、復習をしてください。				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
言葉や表現の確認クイズ 10% 中間理解度テスト 20% 期末理解度テスト 20%、ループリック(課題 30% 協働作業 20%)				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】				
特にありません。授業の時に資料を配りますので自分できちんと整理してください。				
参考文献【Recommended Literature】				
必要な場合は、授業の中でお知らせします。				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
文章を味わえるようになるためには、語彙を増やす必要があります。これは少し大変ですが、ステップアップするためにどんどんチャレンジしてください。				

シラバス
Syllabus
(特別講義・日本事情科目)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の宗教 A	2	唐澤太輔	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
環日本海文化と宗教		前期	木 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の宗教の多様性と特徴、そして成り立ちの大枠を理解することを本講義の目標とします。			
講義概要【Lecture Outline】			
古代、日本の表玄関は出雲(今の島根県東部)や越(今の福井県から新潟県にかけての地域)でした。それらの地域には、対岸諸国からさまざまな物がもたらされました。物と一緒にさまざまな信仰や宗教ももたらされました。対岸諸国からは、みなさんのよく知っている仏教だけではなく、多くの民間信仰も伝わりました。それらを総称して「韓神信仰」と言うこともあります。この信仰は、どのような形で日本の文化や宗教に残っているのでしょうか。本講義では、日本海側に特徴的な信仰や文化を中心に講義し、日本の宗教との比較を行います。			
講義方法【Lecture Method】			
パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
普段から、身近にある神社やお寺の由緒などに关心をもって接してください。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
平常点 30%：主に出席状況を評価の対象にします。毎回、授業の最後に簡単なコメントシート(意見や感想など)を書いてもらいます。			
試験 70%：期末試験(論述式)を行い、講義内容・レジュメ等の理解度を評価の対象とします。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
授業時に指示します。			
参考文献【Recommended Literature】			
『「裏日本」文化ルネッサンス』(社会評論社 2011 年、石塚正英・工藤豊・石川伊織・唐澤太輔)			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
わからない点、疑問に思う点などは、いつでも私まで聞きに来て下さい。楽しみながら日本の宗教を学んでいきましょう。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の宗教 B	2	唐澤太輔	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
聖地と宗教		後期	木 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の宗教の多様性と特徴、そして成り立ちの大枠を理解することを本講義の目標とします。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本にはさまざまな聖地があります。比叡山や高野山、熊野、出雲大社などです。それらの聖地と宗教は密接にかかわりを持っています。聖地はどのようにして聖地になつていったのでしょうか。本講義では、日本の聖地と宗教とのかかわりを中心に講義を行います。生と死、この世とあの世など、聖地では、さまざまな事柄が混じり合います。古来、日本人々は、この聖地をどのように捉えてきたのでしょうか。本講義では、日本におけるいくつかの聖地について写真などを交えて、その成り立ちなどを紹介していきます。			
講義方法【Lecture Method】			
パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
普段から、身近にある神社やお寺の由緒などに关心をもって接してください。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
平常点 30%：主に出席状況を評価の対象にします。毎回、授業の最後に簡単なコメントシート(意見や感想など)を書いてもらいます。			
試験 70%：期末試験(論述式)を行い、講義内容・レジュメ等の理解度を評価の対象とします。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
授業時に指示します。			
参考文献【Recommended Literature】			
授業時に指示します。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
わからない点、疑問に思う点などは、いつでも私まで聞きに来て下さい。楽しみながら日本の宗教を学んでいきましょう。			

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A · B 重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の歴史・文学A	2	下間 一頼	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本文化とその歴史		前期	月 4
到達目標【Attainment objectives】			
歴史的側面から文化の成り立ちを考察する方法を身に付ける			
講義概要【Lecture Outline】			
日本人の生活・風習、思考形態がどのように形作られてきたのか。日本の歴史を学ぶことを通じて考えていく。			
講義方法【Lecture Method】			
プリント・映像資料を参照しながら、受講生の日本史理解を深める。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
授業中に指示する。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
レポート [50%]・講義への参加姿勢 [50%]			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
指定テキストなし、講義時プリント配布。			
参考文献【Recommended Literature】			
授業中に適宜紹介する。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の歴史・文学A	2	下間 一頼	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本文化とその歴史		前期	月 4
到達目標【Attainment objectives】			
歴史的側面から文化の成り立ちを考察する方法を身に付ける			
講義概要【Lecture Outline】			
日本人の生活・風習、思考形態がどのように形作られてきたのか。日本の歴史を学ぶことを通じて考えていく。			
講義方法【Lecture Method】			
プリント・映像資料を参照しながら、受講生の日本史理解を深める。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
授業中に指示する。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
レポート [50%]・講義への参加姿勢 [50%]			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
指定テキストなし、講義時プリント配布。			
参考文献【Recommended Literature】			
授業中に適宜紹介する。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			

A（前期）とB（後期）の授業内容同一（A・B重複受講不可）

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の歴史・文学 A	2	櫻井清華	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
京都の歴史・文化・文学		前期	火 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本文化と歴史への理解を深める			
講義概要【Lecture Outline】			
千年の古都である京都は、日本の歴史・文化・文学の土壤に深い影響を与えています。本講義では、奈良時代の万葉集編纂の経緯と古代政治にはじまり、平安遷都、王朝文化の最盛時に焦点をあて、日本語表記の起源・古代政治と天皇家・祭祀・貴族の生活やその精神についての理解を深めます。(講義内容の詳細はA・B異なります)			
講義方法【Lecture Method】			
基本的に講義で行います。日本と比較して自国の文化についての発言を求めることもあります			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
日常生活の中から意識的に「日本」を学んでください。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
日常生活の中から意識的に「日本」を学んでください。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
なし			
参考文献【Recommended Literature】			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
「楽しくまなぶ・まじめにまなぶ」をモットーにしています。積極的な参加と発言を求めます。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の歴史と文学 B	2	櫻井清華	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
京都の歴史・文化・文学		後期	火 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本文化と歴史への理解を深める			
講義概要【Lecture Outline】			
千年の古都である京都は、日本の歴史・文化・文学の土壤に深い影響を与えています。本講義では、奈良時代の万葉集編纂の経緯と古代政治にはじまり、平安遷都、王朝文化の最盛時に焦点をあて、日本語表記の起源・古代政治と天皇家・祭祀・貴族の生活やその精神についての理解を深めます。(講義内容の詳細はA・B異なります)			
講義方法【Lecture Method】			
基本的に講義で行います。日本と比較して自国の文化についての発言を求めることもあります			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
日常生活の中から意識的に「日本」を学んでください。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
日常生活の中から意識的に「日本」を学んでください。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
なし			
参考文献【Recommended Literature】			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
「楽しくまなぶ・まじめにまなぶ」をモットーにしています。積極的な参加と発言を求めます。			

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の社会・文化A	2	石原凌河
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の地域と文化	前期	木4
到達目標【Attainment objectives】		
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地域特性や文化に関する基礎的な知識を身につける。 ・日本の地域や文化に対する関心を高める。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>日本の地域社会や文化を理解するために必要となる日本の地域特性(地誌)の基礎について学びます。講義では、地域別の人口構成、自然特性、空間的特徴、特色ある産業や文化、地域再生の現状などについて取り上げます。また、関心がある日本の地域・文化について発表してもらい、その内容について受講生同士で議論します。さらに、日本の文化に触れるためにフィールドワークを行います。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>授業中に配布する資料に基づいて講義します。毎回の授業中に講義内容に関する課題を行ってもらいます。また、授業の後半では、受講生による発表と意見交換の機会を設けます。さらに、日本の文化に触れるためにフィールドワークを授業期間中の土日に1回行います。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ul style="list-style-type: none"> ・復習の際には授業で配布する資料を見直してください。 ・日本の地域や文化に関する報道に日頃から関心を持ってください。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業中に提出する課題 50% ・日本の地域・文化に関するレポート(作文)と発表 50% 		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
特に指定しません。		
参考文献【Recommended Literature】		
講義時に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
積極的に参加することを期待します。わからないことがあれば質問をするように心がけてください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の社会・文化B	2	石原凌河
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の政治と経済	後期	火4
到達目標【Attainment objectives】		
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治経済に関する基礎的な知識を身につける。 ・日本の時事問題に関する関心を高める。 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>日本社会を理解するために必要となる日本の政治経済の基礎について学びます。講義では、日本国憲法の内容や、日本の政治の仕組み、政府の役割、社会保障などについて取り上げます。また、関心がある日本の時事問題について発表してもらい、その内容について受講生同士で議論します。さらに、日本の文化に触れるためにフィールドワークを行います。</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>授業中に配布する資料に基づいて講義します。毎回の授業中に講義内容に関する課題を行ってもらいます。また、授業の後半では、受講生による発表と意見交換の機会を設けます。さらに、日本の文化に触れるためにフィールドワークを授業期間中の土日に1回行います。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<ul style="list-style-type: none"> ・復習の際には授業で配布する資料を見直してください。 ・日本の時事問題に関する報道に日頃から関心を持ってください。 		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業中に提出する課題 50% ・日本の時事問題に関するレポート(作文)と発表 50% 		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
特に指定しません。		
参考文献【Recommended Literature】		
講義時に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
積極的に参加することを期待します。わからないことがあれば質問をするように心がけてください。		

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A · B 重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の社会・文化 A	2	荒木美知子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の社会・文化を知る		前期	木 3
到達目標【Attainment objectives】			
日本の社会や文化を知ることはそれぞれの母国を知ることでもある。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本の社会や文化、教育などをとりあげ、日本と他の国との相違を考える。 その中でも共通する部分を大事にしたい。長い人類史の中で培われてきた人間の知恵をそれらを通して考える。			
講義方法【Lecture Method】			
配付資料などをもとに自分たちでも調べたりディスカッションなどをする。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
必要に応じて指示する			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
レポートおよび授業への参加			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
プリントなどの配付			
参考文献【Recommended Literature】			
適宜紹介する			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
日本とそれぞれの国の相違をしっかり考えていきたい。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の社会・文化 B	2	笠井 賢紀	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の地域社会 (Japanese Local Community)		後期	月 3
到達目標【Attainment objectives】			
日本の地域社会の特徴について、受講生の出身地域との比較において一定の理解・説明が可能になること。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本に留学していても地域社会について知る機会は限られている。しかし、地域社会を支える主体、民俗、制度を知ったり、日本における地域の多様性を理解したりすることを通じて、日本における日常の生活・暮らしについて迫ることができるだろう。			
講義方法【Lecture Method】			
各回の講義は5つの場面から構成される。講師は毎週、日本の地域社会についての理論と事例を紹介する。受講生は予習課題によって日本または出身地域について、指定されたテーマの資料を準備する。同資料を基に、毎週、意見交換や経験共有の機会を設ける。			
(1)前回の復習 (2)講師からの話題提供 (3)予習課題に基づくワーク (4)まとめ (5)課題の説明			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
毎週、翌週のテーマについての説明と予習課題が出される。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
期末レポートを課す。期末レポートの詳細は第7回までに授業で配布する。第12回に中間レポートを提出し、第13回でコメントとともに返却され、第14回で最終レポートとして再提出すること。			
期末レポートを50点、予習課題を50点で評価する。欠席は理由にかかわらず1回に付き5点を減じる。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
なし			
参考文献【Recommended Literature】			
なし			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
受講生の希望に応じて国内の関連事例を案内できる。費用は実費で受講生が負担すること。この事例紹介・案内への参加有無や貢献は本科目の成績に一切関係ない。			
担当教員のオフィスアワーは金曜1限だが、研究室は瀬田キャンパス（滋賀県）にある。そのため、相談がある場合には、まずはメールをしてほしい（日本語または英語）。			
Don't hesitate to take this course even if you are worry of communication in Japanese :-) Let's brush our communication skill in Japanese together through learning Japanese local community.			

A（前期）とB（後期）の授業内容異なる（A・B重複受講可）

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の科学技術 A	2	渋谷恒司, 堤一義, 左近拓男	
日本の機械技術および材料の磁気的・電気的機能性	前期	水3, 4 (集中)	
到達目標【Attainment objectives】			
日本の科学技術に関する知識を深め、自ら進んで調べることができるようになること。			
講義概要【Lecture Outline】			
<p>渋谷担当分 日本の科学技術を代表するロボットについて、その歴史、現状を概説する。また、ロボット技術を支えるメカトロニクス技術についても紹介する予定である。 (2018年4月18日(水)3~4講時, 2018年5月16日(水)3~4講時)</p> <p>左近担当分 先端の電子機器や機械に利用されている合金や非金属材料の、磁気的・電気的機能性について講義を行なう。京都市内の企業を訪問し、開発や生産の様子を見学する。 (講義: 2018年6月6日(水)3~4講時, 6月13日(水)3~4講時, 7月18日(水)3~5講時 企業見学)</p> <p>堤担当分 日本の科学技術のうち、特に鉄道、自動車、放送・通信などに焦点を当て、黎明期から今日に至るそれらの変遷について講述する。国外との関連性についても言及する予定である。 (2018年6月20日(水)3~4講時, 2018年7月4日(水)3~4講時)</p>			
講義方法【Lecture Method】			
通常の講義に加えて、工場見学を実施する。工場見学の詳細は後日知らせる。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
授業の内容について、図書やインターネット等で調べたりして予復習すること。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
平常点とレポートにより評価する。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
特に無し。			
参考文献【Recommended Literature】			
授業時に適宜紹介する。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
科学技術に関心をもって受講して欲しい。			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の科学技術 B	2	山口 里美
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
日本の科学技術を幅広く学ぼう	後期	木 3
到達目標【Attainment objectives】		
身近にある日本の科学技術について幅広く理解すること。		
講義概要【Lecture Outline】		
日本の科学技術の現状・特徴について、さまざまな事例を紹介しながら、幅広く理解することを目指す。紹介する内容は、身近なところから選び、できるだけ多くの学生に興味を持ってもらえる内容とする。		
講義方法【Lecture Method】		
毎回、異なる内容で、新聞や雑誌などの記事を使い、授業で解説とディスカッションをおこなう。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
いつも、様々なことに好奇心を持って生活することを心がけてほしい。深く知りたいと思った内容があれば、授業で取り上げることもある。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
レポート(70点)と平常点(30点)により評価する。なお、平常点は出席点と発表により決定する。		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義時にプリント配布		
参考文献【Recommended Literature】		
特になし		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
講義を通じて、身近にある日本の科学技術に親しみを持ってもらいたいと思います。そこから、もっと深く日本を理解することにつながることを期待します。		

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】			
日本の経渓・経営 A	2	松岡憲司			
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】			
日本経渓・経営の歴史と現状、課題	前期	月 3			
到達目標【Attainment objectives】					
日本の経渓・経営についての基礎知識を習得することを目指す。					
講義概要【Lecture Outline】					
第二次大戦後の日本経渓の軌跡を学んでから、さまざまな側面から日本経渓や日本企業の経営の現状や課題について考える。日本経渓や日本企業は長期にわたる景気低迷、財政赤字、少子高齢化、震災からの復興、エネルギーと環境などさまざまな問題を抱えている。これらの問題を、多角的にとらえていく。					
講義方法【Lecture Method】					
講義形式で内容を説明していく。映像資料を使うこともある。 受講生の状況を見て、討論の場を設けることもある。					
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】					
復習でわからないことがあったら、次回に質問すること。					
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】					
主に期末試験によって評価するが、受講生の状況を見て、レポートや中間試験を追加して、評価に加えることもある。					
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】					
なし					
参考文献【Recommended Literature】					
『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社					
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】					
日本の新聞やテレビのニュースを見て、日本の経渓や経営の状況について学んでおくこと。					

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】			
日本の経渓・経営 B	2	松岡憲司			
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】			
日本経渓・経営の歴史と現状、課題	後期	月 3			
到達目標【Attainment objectives】					
日本の経渓・経営についての基礎知識を習得することを目指す。					
講義概要【Lecture Outline】					
第二次大戦後の日本経渓の軌跡を学んでから、さまざまな側面から日本経渓や日本企業の経営の現状や課題について考える。日本経渓や日本企業は長期にわたる景気低迷、財政赤字、少子高齢化、震災からの復興、エネルギーと環境などさまざまな問題を抱えている。これらの問題を、多角的にとらえていく。					
講義方法【Lecture Method】					
講義形式で内容を説明していく。映像資料を使うこともある。 受講生の状況を見て、討論の場を設けるもある。					
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】					
復習でわからないことがあったら、次回に質問すること。					
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】					
主に期末試験によって評価するが、受講生の状況を見て、レポートや中間試験を追加して、評価に加えることもある。					
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】					
なし					
参考文献【Recommended Literature】					
『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社					
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】					
日本の新聞やテレビのニュースを見て、日本の経渓や経営の状況について学んでおくこと。					

A (前期) と B (後期) の授業内容同一 (A・B重複受講不可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の経済・経営 A	2	坂本雅則	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の経済・経営を知る		前期	火 5
到達目標【Attainment objectives】			
日本語を正確に発音した上で、正確な日本語で内容を説明できることを目指してください。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本の経済や経営に関する一般的な知識を深めます。			
講義方法【Lecture Method】			
文献を輪読することを通じて、日本の経済状況や経営のあり方について学びます。輪読していくながら、適宜、内容に関する質問をします。事前に文献を読んでくることが必要です。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
当然、各自、行って下さい。特に、当日読む箇所を予習しておくこと。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
出席状況、予習の程度、講義での積極性・態度などを総合的に評価します。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
第1回目に指示する予定です。			
参考文献【Recommended Literature】			
必要な範囲で講義時に指示します。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
講義中の私語、携帯を見るなどは厳禁です。成績評価にかかわるので注意して下さい。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の経済・経営 B	2	坂本雅則	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の経済・経営を学ぶ		後期	火 5
到達目標【Attainment objectives】			
日本語を正確に発音した上で、正確な日本語で内容を説明できることを目指してください。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本の経済や経営に関する一般的な知識を深めます。			
講義方法【Lecture Method】			
文献を輪読することを通じて、日本の経済状況や経営のあり方について学びます。輪読していくながら、適宜、内容に関する質問をします。事前に文献を読んでくることが必要です。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
当然、各自、行ってください。特に、当日読む箇所を予習しておくこと。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
出席状況、予習の程度、講義での積極性・態度などを総合的に評価します。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
第1回目に指示します。			
参考文献【Recommended Literature】			
必要な範囲で講義中に指示します。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
講義中の私語、携帯を見るなどは厳禁です。成績評価にかかわるので注意して下さい。			

A（前期）とB（後期）の授業内容同一（A・B重複受講不可）

授業科目名【Class Title】 日本の武道・芸道 A	単位 【Credits】 2	担当者【Class Instructor】 上原博一
サブテーマ【Sub Theme】 茶道を通じて日本文化を学ぶ	開講期 【Semester】 前期	曜講時 【Day & Period】 月 4
到達目標【Attainment objectives】 お茶は、中国そして韓国から日本に伝わってきた時は薬としての利用でした。やがて、飲み物として楽しめるようになりました。15世紀にお茶を飲むこと(喫茶)は、日本人独自の感性により、“茶道”として大きく発展しました。日本の住居(家屋、庭)、習慣、衣装、食事、陶器、漆器、絵画、書、工芸などには“茶道”的影響が大きくみられます。 この講義では“茶道”への体験的な理解を通して、日本の文化と他の地域との文化の違いについて考え、日本文化への理解を深めることを目標とします		
講義概要【Lecture Outline】 第1回：(4月9日)講義ガイダンス～シラバスの説明、お辞儀、日本の挨拶。結界の意味 ミニ実技演習：お辞儀と挨拶について 第2回：(4月16日)日本のお茶～日本の茶道の歴史 ミニ実技演習：茶道具の拝見の仕方(マナー)、お茶碗の正面とは。 第3回：(4月23日)利休の目指した茶、～禅と茶道、古儀茶道敷内について 第4回：(4月30日)教室外講義(予定)～世界に広がるお茶～世界の様々な国々とお茶を理解しよう 実演鑑賞：韓国茶道について 於：龍大深草キャンパス「紫光館」和室 第5回：(5月7日)総合芸術としての茶事～茶会には必ずテーマがある ミニ実技演習：茶会でのお茶の頂き方 第6回：(5月14日)教室外講義(予定)～体験茶会(1) 於：龍大深草キャンパス「紫光館」和室 演習：日本独自の総合芸術である“お茶事”を体験する 第7回：(5月28日)茶道をささえる様々な日本文化(1)～書、菓子、和食、民族衣装(きもの) 第8回：(6月4日)茶道をささえる様々な日本文化(2)～陶器工芸、竹工芸、木工芸、漆工芸 第9回：(6月11日)茶道をささえる様々な日本文化(3)～茶室、露地、茶花 第10回：(6月18日)教室外講義～古儀茶道敷内家元を見学訪問(スクールバス活用) 演習：茶会体験、露地(庭)拝見等 第11回：(6月25日)禅と茶道～日本人の信仰と茶道とのかかわり 第12回：(7月2日)日本の季節と日本人の心～日本の様々な季節感(京都地域の季節を中心に)について季節行事、節句行事についての理解を深める 第13回：(7月9日)茶事を企画する～みたて(様々な道具を別の目的に活用する) 茶事のテーマ設定、道具組み等をグループワークにより作り上げる。 第14回：(7月16日)教室外講義(予定)～体験茶会(2) 於：龍大深草キャンパス「紫光館」和室 まとめの茶会のリハーサル、前回授業で企画したシナリオにもとづき茶会を催す。 第15回：(7月23日)教室外講義(予定)～体験茶会(3) 於：龍大深草キャンパス「紫光館」和室 留学生自らが企画した国際茶会を催す。		
講義方法【Lecture Method】 1) 講師からの一方的な講義ではなく、受講生同士のディスカッションや“ミニ実習”を組み込みます。 2) 理念的な理解ではなく、具体的な体験をおして日本文化の考え方を学びます。 3) 教室の外に出かけ“家元見学訪問”、“茶会体験”的機会を設定しています。 第1回の講義時に、詳細なシラバスとスケジュールを配布しますので、必ず出席してください。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】 日本の住居(家屋、庭)、習慣、衣装、食事、陶器、漆器、絵画、書、工芸など、茶道に影響をもたらしている日本の文化に対して、様々な興味、関心を持ってください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】 中間レポートの内容、最終レポートの内容、および講義等への参加姿勢を総合的に判断して評価します。		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】 必要に応じて、講義時に適宜、プリントを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】 岡倉天心著『(対訳ニッポン双書)茶の本 The Book of Tea』IBCパブリッシング(株) 1,200円		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】 本科目は、定員25名の科目です。履修には事前の申込み(先着順)が必要となります。申込み開始は、4月6日(金)8:45～(場所:グローバル教育推進センター事務室)です。 日本文化への体験的な理解を講義の目的にしています。受講生の皆さんの講義、実習、見学、体験講座時での積極的な姿勢を望みます。 日本では、正式な茶会での服装は民族衣装(着物)です。家元への見学と体験茶会では、可能ならばそれぞれの母国の民族衣装を着ることを望みます。しかし、着ることが難しい場合は、必ずスーツを着用して参加してください。ジーンズにTシャツなどのラフな服装は禁止します。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の武道・芸道B	2	島田洋海
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
KYOGEN という芸の道	後期	水4
到達目標【Attainment objectives】		
狂言の身体表現の実践、古典芸能の中の狂言の位置付けへの理解		
講義概要【Lecture Outline】		
能と狂言は能楽と呼ばれています。狂言の側から、能楽の歴史、また京都・茂山千五郎家の歴史を紹介します。後半は役者の立場から、稽古を通して実際に狂言を体験してもらいます。		
講義方法【Lecture Method】		
お話中心の講義と体を使った狂言の稽古、また、教室外での能楽鑑賞も予定しています。 前半の講義と後半の稽古は教室が異なります。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
とくになし		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
実技		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義時プリント配布		
参考文献【Recommended Literature】		
和伝書 茂山千五郎家 淡交社 ¥1,400（税別）		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
あまり難しく考えず、受講してみてください。 演劇、身体表現に興味のある方にはおすすめです。		

A（前期）とB（後期）の授業内容異なる（A・B重複受講可）

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】	
日本の教育 A	2	武田 猪久生	
サブテーマ【Sub-Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の教育の現状と問題		前期	木 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の教育の現状(教育制度・特徴など)を把握し、その問題点に対し自分なりの意見を持つ。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本の教育の現状と生じている問題について学ぶ。			
講義方法【Lecture Method】			
個人発表・グループ発表をおこない、ディスカッションをしてもらう。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
新聞などを通じて日本社会の問題点(特に教育関係)をあらかじめ把握しておくこと(概要だけでもかまわない)。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
レポートを提出してもらう。授業への積極的な参加(発言など)も評価の対象とする。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
講義時に紹介する。			
参考文献【Recommended Literature】			
講義時に紹介する。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
日本の教育に関する情報に关心を持ち、あなたの出身国と比べて何が同じか・何が異なるのか考えてみましょう。			

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】	
日本の教育 B	2	武田 猪久生	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本の教育の現状と問題		後期	木 4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の教育の現状(教育制度・特徴など)を把握し、その問題点に対し自分なりの意見を持つ。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本の教育の現状と生じている問題について学ぶ。			
講義方法【Lecture Method】			
個人発表・グループ発表をおこない、ディスカッションをしてもらう。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
新聞などを通じて日本社会の問題点(特に教育関係)をあらかじめ把握しておくこと(概要だけでもかまわない)。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
レポートを提出してもらう。授業への積極的な参加(発言など)も評価の対象とする。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
講義時に紹介する。			
参考文献【Recommended Literature】			
講義時に紹介する。			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
日本の教育に関する情報に关心を持ち、あなたの出身国と比べて何が同じか・何が異なるのか考えてみましょう。			

A(前期)とB(後期)の授業内容同一(A・B重複受講不可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の言葉 A	2	鍛崎 謙子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本語の規範と実態（文字・表記、表現）	前期	金4
到達目標【Attainment objectives】		
・実際に運用されている日本語について理解を深める。 ・母語をはじめ、他の言語と日本語を比較することで、日本語の特徴を知ると同時に、母語についても理解を深める。		
講義概要【Lecture Outline】		
日本語の文字・表記、表現などについて、どのようにして現在の日本語になったのか、また実際にどのように運用されているのかを説明します。教室で学ぶ日本語と、実際に使われる日本語の差について知ることで、日本語の理解力・運用力をさらに高めます。また、日本語と他の言語の比較もし、日本語の特徴をより深く理解することを目指します。		
講義方法【Lecture Method】		
まず、日本語の文字・表記、表現などについて、いくつかテーマを取り上げて説明します。受講者は毎時間学んだことについて、自分の考えをまとめておきます。その後、受講者は興味のあるテーマを選んで、日本語と他の言語を比べ、共通点や相違点について発表します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業内容の復習と学期末に行うプレゼンテーションの準備をします。（プレゼンテーションについて、詳しくは講義時に説明します。）		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
毎回のコメントシート：30%、発表：30%、レポート40%		
毎回授業の後に、その日に扱ったテーマについて母語と比較して考えたことなどをコメントシートに記入して提出します。コメントシートをもとにテーマを決め、考えを深めて、発表の準備をします。発表後にその内容をまとめて、レポートを作成します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義時にプリントを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
講義時に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
毎回のコメントシートも評価の対象であり、欠席した場合、その分の点数を得ることはできません。また、発表時に欠席した場合は発表の点数を得ることができません。毎時間の講義に積極的に参加してください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本の言葉 B	2	鍛崎 謙子
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本語の規範と実態（語彙、敬語、位相差）	後期	金4
到達目標【Attainment objectives】		
・実際に運用されている日本語について理解を深める。 ・母語をはじめ、他の言語と日本語を比較することで、日本語の特徴を知ると同時に、母語についても理解を深める。		
講義概要【Lecture Outline】		
日本語の語彙、敬語、位相差などについて、どのようにして現在の日本語になったのか、また実際にどのように運用されているのかを説明します。教室で学ぶ日本語と、実際に使われる日本語の差について知ることで、日本語の理解力・運用力をさらに高めます。また、日本語と他の言語の比較もし、日本語の特徴をより深く理解することを目指します。		
講義方法【Lecture Method】		
まず、日本語の語彙、敬語、位相差などについて、いくつかテーマを取り上げて説明します。受講者は毎時間学んだことについて、自分の考えをまとめておきます。その後、受講者は興味のあるテーマを選んで、日本語と他の言語を比べ、共通点や相違点について発表します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
授業内容の復習と学期末に行うプレゼンテーションの準備をします。（プレゼンテーションについて、詳しくは講義時に説明します。）		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
毎回のコメントシート：30%、発表：30%、レポート40%		
毎回授業の後に、その日に扱ったテーマについて母語と比較して考えたことなどをコメントシートに記入して提出します。コメントシートをもとにテーマを決め、考えを深めて、発表の準備をします。発表後にその内容をまとめて、レポートを作成します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義時にプリントを配布します。		
参考文献【Recommended Literature】		
講義時に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
毎回のコメントシートも評価の対象であり、欠席した場合、その分の点数を得ることはできません。また、発表時に欠席した場合は発表の点数を得ることができません。毎時間の講義に積極的に参加してください。		

A（前期）とB（後期）の授業内容異なる（A・B重複受講可）

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の法律・政治 A	2	荒島 千鶴	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	暖講時【Day & Period】
現代日本の政治入門		前期	金4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の政治について理解し、説明ができる。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本国憲法体制と政治の枠組み、国会の機能、日本の立法過程、政策の形成・実施、選挙制度、日本の民主主義、日本の平等主義、日本のナショナリズム等に関して、基礎的な理解に努めていく。			
講義方法【Lecture Method】			
レジュメを配布し、履修生との質疑応答をとりながら講義を行う。適宜、時事問題についての解説および討論を行う。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
テキストを読んで予習し、わからない部分がどこかを明確にしておく（30分）。復習としてレジュメとテキストを読み返す（1時間）。日本の法律・政治に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見たりする（30分）。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
受講時の態度（発言、発表、討論 etc.）と試験の総合的な評価とする。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
『現代日本政治入門』（新藤宗幸ほか著、東京大学出版会、2016年、2900円+税）			
参考文献【Recommended Literature】			
講義時に紹介			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
わからないことを質問したり、意見を述べたり、授業に積極的に参加してください。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
日本の法律・政治 B	2	荒島 千鶴	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】	暖講時【Day & Period】
現代日本の法律入門		後期	金4
到達目標【Attainment objectives】			
日本の法律について理解し、説明ができる。			
講義概要【Lecture Outline】			
法と裁判、憲法、刑法、家族法、財産法、労働法、国際法に関して、基礎的な理解に努めていく。			
講義方法【Lecture Method】			
レジュメを配布し、履修生との質疑応答をとりながら講義を行う。適宜、時事問題についての解説および討論を行う。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
テキストを読んで予習し、わからない部分がどこかを明確にしておく（30分）。復習としてレジュメとテキストを読み返す（1時間）。日本の法律・政治に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見たりする（30分）。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
受講時の態度（発言、発表、討論 etc.）と試験の総合的な評価とする。			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
『現代法学入門〔第4版〕』（伊藤正己ほか著、有斐閣、2005年、1200円+税）			
参考文献【Recommended Literature】			
講義時に紹介			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
わからないことを質問したり、意見を述べたり、授業に積極的に参加してください。			

A（前期）とB（後期）の授業内容異なる（A・B重複受講可）

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】		
Japanese Religions A	2	KAMEYAMA Takahiko		
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	曜講時【Day & Period】		
Religion and Art in Japan: The Significance of Religious and Imaginary Representation in Japanese Society	Semester 1	Friday 4		
到達目標【Attainment objectives】				
Acquiring the knowledge of material and artistic culture of Japanese religion.				
講義概要【Lecture Outline】				
<p>A lot of multiple religious and imaginary representations are still extant and significantly influential in each country in Asian region even today. Needless to say, Japan is one of such Asian countries. In this country, diverse Buddhist, Shinto, Daoist, and other religious images such as the statues, paintings, and drawings of Buddhas, bodhisattvas, gods (<i>kami</i>), indigenous demons, divine religious practitioners (<i>shugenja</i>), and ghosts have been inherited by people in an unbroken line to the present day. On the one hand, we are able to relatively easily appreciate these items as precious wonderful art works in some exhibitions held in eminent museums such as Tokyo and Kyoto National Museum. On the other hand, however, we also have to fully recognize their religious significance and strong connection with specific religious facilities.</p>				
<p>The Japanese people also have successively transmitted a lot of diverse religious rituals, both public and private or institutional and individual, as their own cultural heritage. These rituals include the "new year festival" (<i>hatsumōde</i>), "wedding" (<i>kekkonshiki</i>), and "funerary rite" (<i>sōshiki</i>), and it is noteworthy that the aforementioned statues, paintings, and drawings frequently function as the main objects of worship in them. In addition, most of these images are possessed not by eminent museums or art galleries but by Buddhist temples or Shinto shrines even today.</p>				
<p>Through lectures, first and foremost, I hope to introduce the diverse religious and imaginary representations which are widely circulated throughout Japanese society, and to discuss their influence. I also hope to expound the common characteristics shared by them. In addition, I will examine what significance and function such religious images actually have in contemporary Japan and the world of pop culture. Specifically, we will discuss following issues:</p>				
<p>Festival (<i>matsuri</i>) in Japan; "Other World" on the Mountain in Japan; Art in the "Mixture between Kami and Buddha" (<i>shinbutsu shūgō</i>); Contemporary Japanese Culture and Religious Images etc.</p>				
講義方法【Lecture Method】				
<p>I will give students a handout in each lecture. I will conduct a lecture basically in accordance with this handout. In each lecture, I will also provide the time for discussion in which I hope to actively answer questions from students. Students are required to have a presentation about issues concerned with Japanese religions and culture at the end of the semester.</p>				
<p>In addition, we will make a few field trips to the Buddhist temples or Shinto shrines to which I will refer in the lecture, and actually see the influence of the religious and imaginary representations upon Japanese society.</p>				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
<p>Please prepare for each lecture based on information which I previously provide for students.</p>				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
<p>Grade will be based on (1) class participation (30%), (2) student presentation (40%), and (3) final research paper (30%).</p>				
<p>Students are required to have a presentation in English, and to submit a research paper written in English at the end of the semester. The subject of a presentation and research paper has to be concerned with Japanese religions and culture.</p>				
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】				
Lecture Handouts				
参考文献【Recommended Literature】				
Lecture Handouts				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
<p>I hope that students actively participate in lectures.</p>				

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
Japanese Religions B	2	KAMEYAMA Takahiko
サブテーマ【Sub Theme】		開講期【Semester】曜講時【Day & Period】
Shinto in Japanese History: Historical and Sociological Analysis of the Development of the "Japanese Indigenous Religion"		Semester 1 Friday 4
到達目標【Attainment objectives】		
Acquiring the knowledge of developmental history of Shinto in Japan.		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>Some introductory books concerning Japanese culture frequently describe that the religious tradition called Shinto and the faith in Japanese local gods such as Izanagi, Amaterasu, Susanoo, or Inari are the "Japanese indigenous religion." According to these introductory books, they have continuously existed and permeated through Japan since prehistoric time period, and constituted the most profound stratum of Japanese society and culture.</p> <p>However, as such scholars of Japanese religion as Satoshi Itō, John Breen, and Mark Teeuwen have clearly pointed out, the actual situation is much more complicated. First, it is highly possible that Shinto and its main components such as the idea of "god" (<i>kami</i>), "shrine" (<i>yashiro</i> or <i>jinja</i>), and "impurity" (<i>kegare</i>) were gradually established within the complex political religious situation in Japan. In addition, it is also assumed that they received significant influence from foreign religions, especially from Buddhism which was initiated in North India in B.C. 5th century and transmitted to Japan through China and Korean peninsula until around AD 6th century.</p> <p>Through lectures, first and foremost, I hope to introduce the developmental history of Shinto in Japan. I will mainly discuss the process of formation of this notion and the concept of Kami during medieval and early modern time period. In addition, I will also examine its influence upon the language, economics, industry, agriculture, philosophy, and art in Japan from historical and sociological perspective. Specifically, we will discuss following issues:</p> <ul style="list-style-type: none"> Genealogy of Kami and Shinto in Japan; Culture of the "Mixture between Kami and Buddha" (<i>shinbutsu shūgō</i>); Historical Significance of the Fushimi Inari Shrine; Development of Shinto in Early Modern Japan etc. 		
講義方法【Lecture Method】		
<p>I will give students a handout in each lecture. I will conduct a lecture basically in accordance with this handout. In each lecture, I will also provide the time for discussion in which I hope to actively answer questions from students. Students are required to have a presentation about issues concerned with Shinto or other religious traditions in Japan at the end of the semester.</p> <p>In addition, we will make a few field trips to the Shinto shrines or Buddhist temples to which I will refer in the lecture, and actually see the historical traces of the development of Shinto, the "Japanese indigenous religion."</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
Please prepare for each lecture based on information which I previously provide for students.		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
Grade will be based on (1) class participation (30%), (2) student presentation (40%), and (3) final research paper (30%).		
Students are required to have a presentation in English, and to submit a research paper written in English at the end of the semester. The subject of a presentation and research paper has to be concerned with Shinto or other religious traditions in Japan.		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
Lecture Handouts		
参考文献【Recommended Literature】		
Lecture Handouts		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
I hope that students actively participate in lectures.		
A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A · B 重複受講可)		

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】		
Japanese Literature & Movies	2	ANTONONOKA Olga		
Media Specificity in Japanese Historical Context	Semester 1	Tuesday 4		
到達目標【Attainment Objectives】				
<p>Throughout this course, we will look at development of Japanese traditional and contemporary media: adaptation, interpretation, media-mixes, relationships of the source and derivative materials, as well as the texts interaction with the reader. Participants will become aware of the media as a part of the message the narrative conveys. We will gain awareness of the media within Japanese historical context.</p>				
講義概要【Lecture Outline】				
<p>This class offers an introduction to historical development of Japanese media, looking at the prominent media such as Heian period novel, Noh Theater, Edo popular literature, Kabuki theater, film, anime and manga. Each media appeared in a specific historical period and served specific audiences. For example, Heian novel written in kana scripts appeared in aristocratic circles, Noh Theater became a celebrated art-form for military elite, while Kabuki became a form of proto-modern popular culture in Edo period. All of them frequently repeat and recycle same themes and characters.</p>				
<p>Same plots and characters appear through the ages, as adaptations and citation. Texts, such as <i>Genji Monogatari</i> (Murasaki Shikibu), <i>Heike Monogatari</i>, myths and legends had been reimagined through picture-scrolls and traditional theater forms all the way to film, manga and anime. Each media adapted the recognizable contents to serve the historical period, intended audience's aesthetic and ideological expectations.</p>				
講義方法【Lecture Method】				
<p>On the basis of theoretical materials we will read and watch together and analyze the wide array of media from novels to traditional theater as well as manga and anime. First learning about their original context, we will also discuss their place in contemporary Japanese culture.</p>				
<p>Emphasis will be placed on supervised group work and active discussions. Student papers on textual analysis, comparison among theatre and other arts, or original plays, short-stories, comics are encouraged.</p>				
<p>This class was originally designed for international exchange students interested in acquiring a broad general knowledge about Japanese culture and media. For Japanese students, students with TOEFL score of more than 480 or who studied one or two semesters abroad are qualified to take this class.</p>				
<p>Partial materials will be provided in Japanese; however, this class puts a lot of emphasis on discussion and presentations.</p>				
<p>Japanese students without this level of English are encouraged to audit this class without credit, and to sit-in on any lectures of interest.</p>				
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】				
<p>Reading materials, preparations for presentation, final essay</p>				
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】				
<p>30% class attendance and participation in discussion 40% group work (presentation) 30% essays or creative interpretations (own scenarios, comics, artwork etc) of the literary texts, performances, film, manga or anime seen.</p>				
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title - Author - Publisher - Price)】				
<p>Lecture Handouts will all be provided. Readings will be given out in advance or placed in the library, including, but not limited to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Benjamin Walter, 2008. <i>The Work of Art in the Age of Mechanical Reproduction</i>, London: Penguin • Berndt, Jaqueline, 2016b. "Manga, Which Manga? Publication Formats, Genres, Users", <i>Japanese Civilisation in the 21st Century</i>, ed. Andrew Targowsky, Juri Abe, Hisanori Kato, New York: Nova Publishers, 121-134 • Jonah Salz, 2016. "History of Japanese Theatre" Cambridge University Press • Shively, Donald H., 2012. "Bakufu Versus Kabuki", <i>A Kabuki Reader: History and Performance</i>, ed. Leiter, Samuel L, New York: M.E. Sharp, 33-60 				
参考文献【Recommended Literature】				
<ul style="list-style-type: none"> • Berndt, Jaqueline (ed), 2013. <i>Manga's Cultural Crossroads</i>, ed. by Berndt, Jaqueline and Kümmelring-Melbauer, Bettina, London: Routledge • Leiter, Samuel L., 2001. <i>A Kabuki Reader: History and Performance</i>, London: Routledge, • Jonah Salz, 2016. "History of Japanese Theatre" Cambridge University Press • Zeami, 2006. <i>The Flowering Spirit: Classic Teachings on the Art of Nō</i>, Tokyo: Kodansha International 				
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】				
<p>We will be making a field trip to see Cinema Kabuki screening in Kyoto area. Students should prepare the time and expenses for these outings.</p>				

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
Japanese History	2	Hideki Hiramatsu	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
Culture and Society of Japan		Semester1	Tuesday 4
到達目標【Attainment objectives】			
Students understand various views of Japanese history			
講義概要【Lecture Outline】			
This course is an introduction to Japanese history. This course will also include a survey of various historical aspects of Japanese culture and society such as the acceptance of Buddhism, traditional status of women, and development of Japanese aesthetics.			
Students' willingness to participate in discussions and to conduct their own research is essential			
講義方法【Lecture Method】			
Students have a discussion on various issues in class after reading textbook Audio-video materials related on the issues are used for better understanding			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
Students prepare for class by reading designated textbook.			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
Class Participation 50% End of Term Paper 50%			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
Lecture Handouts			
参考文献【Recommended Literature】			
Lecture Handouts to be announced in the class			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
20 minutes late = absence. Requires minimum of two thirds class participation (10 classes out of 15).			

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】	
Japanese Economy and Management	2	Maria Ikeda	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 [Semester]	曜講時 [Day & Period]
Current Issues in Japanese Economy and Business		Semester 1	Monday 4
到達目標【Attainment objectives】			
The aim of this course is to provide an overview of the Japanese economy and business management.			
講義概要【Lecture Outline】			
<p>Week 1 Course orientation and introduction</p> <p>Week 2 GDP and economic growth</p> <p>Week 3 Aging, declining birth rates and population</p> <p>Week 4 Women in the workplace and closing the gender gap</p> <p>Week 5 Employment and the Job market in transition</p> <p>Week 6 Disaster risk management and the economy</p> <p>Week 7 Regional revitalization</p> <p>Week 8 Presentations and discussion (Mid-terms)</p> <p>Week 9 Field trip (1): Visit a factory to learn more about product development and quality management</p> <p>Week 10 Understanding Japanese management and business culture</p> <p>Week 11 Quality management and production</p> <p>Week 12 "Monozukuri", product development and knowledge creation in Japanese companies</p> <p>Week 13 Leadership and motivating performance in the Japanese company</p> <p>Week 14 Final Presentations: Japanese companies SWOT analysis</p> <p>Week 15 Final Presentations: Innovative companies core competence</p> <p>(Sequence of topics may vary. Any revisions in the above schedule will be announced in class.)</p>			
講義方法【Lecture Method】			
The course will be conducted as follows:			
<p>1. Students discuss assigned readings and videos that will provide information about these issues in an economic perspective.</p> <p>2. There will be lectures (by the instructor) and presentations (by students) to stimulate class interaction and discussion. Students are required to give presentations and submit short exercises for this course.</p>			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
At least one field trip will be scheduled to supplement the lectures and discussions on product development, quality management and social contribution using concepts and techniques deeply rooted in Japanese tradition and culture. Students are expected to write a report about the field trip and to read about current events or the news in order to actively participate in discussions, give presentations and complete homework and/or exercises.			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
<p>Class participation & attendance: 10%</p> <p>Homework, exercises and reports: 30%</p> <p>Midterm presentation: 30%</p> <p>Final presentation: 30%</p> <p>Note: Presentations will be evaluated based on delivery, research content, organization and learning outcome.</p>			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title - Author - Publisher - Price)】			
Organisation for Economic Cooperation and Development (OECD) Economic Survey of Japan 2017. ISSN: 1999-012X (online) URL: http://dx.doi.org/10.1787/eco_surveys-ipn-2017-en			
参考文献【Recommended Literature】			
Flath, David. 2014. The Japanese Economy. Oxford University Press, 3 rd Edition. (ISBN: 019870240X) Shimizu, Shigeo. 2014. Japanese-Style Management: From Crisis to Reformation in the age of Abenomics. Lid Publishing. (ISBN: 1907794409) Chang, Mark and Horiguchi, Kazuhisa. 2014. 英語で学ぶ日本の経済とビジネス An Insight into the Japanese Economy. Sanshusha Company. (ISBN: 4384334427)			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
<p>1. This course is entirely in English. English language proficiency is a course prerequisite. Students whose first language is not English (and/or whose two most recent years of full-time education have not been in an English-language school system) need to provide proof of English proficiency in the first class to be allowed to register for the course. The recommended minimum TOEFL score for course registration is 430 on the paper-based test and 45 on the Internet-based test. For IELTS, the recommended minimum overall band score is 4 and for TOEIC, 600.</p> <p>2. If you submit any homework or report late but within 24 hours of the deadline, your score will be reduced by 5 percentage points. For late submissions (two to six days after the deadline), your score will be reduced by a further 10 percentage points. If you submit an exercise or report one week or more after the deadline, you will receive a score of 0% for a 'completed' task submitted late.</p>			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
Japanese Law and Politics - Issues in Japan today	2	Shincha Park	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
		1st semester	Mon. 13:15~
到達目標【Attainment objectives】			
This course aims to provide broad knowledge of the contemporary Japanese society focusing on political and legal aspects. We will also compare Japan with other societies.			
講義概要【Lecture Outline】			
This course explores various aspects and issues of the Japanese society, including politics, legal structure, demography, family, work, education, social movements, gender inequality, minorities and immigration in Japan today. Going beyond general explanations, we will study and discuss about various problems in the Japanese society which arose in the face of recent social changes and advancing globalization. We will also place Japan in a global context and compare it with other societies to see what are characteristics and commonalities among them.			
講義方法【Lecture Method】			
Lectures with active participation of students: discussion, small group presentation			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
Reading assignments			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
Class participation and contribution, Mid-term essay, Final paper			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】			
Provided by the lecturer			
参考文献【Recommended Literature】			
V.L. Bestor, et.al. eds. <i>Routledge Handbook of Japanese Culture and Society</i> Y. Sugimoto, <i>An introduction to Japanese Society</i> (3 rd ed.)			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
Details of course materials and evaluation will be available in the first meeting.			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
Japanese Media and Arts	2	Jessica Bauwens-Sugimoto
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
Fashion in Japanese Media/Japanese Fashion in Media	Semester 2	Monday 3
到達目標【Attainment objectives】		
Students should be able to recognize major trends from the past decades across media like magazines, websites, documentaries, and film, as well as be able to discuss the presentation of various fashion trends across these media.		
講義概要【Lecture Outline】		
There has been a notable taste for Japonisme in fashion Since the 19 th century. In the late 1970s, early 1980s, high end Japanese fashion took over Paris runways, and since the late 1990s, Japanese street wear has been influencing trends worldwide. Japanese fashion has been called everything from artistic to scandalous, weird, and crazy, but is now mainstream with brands like Uniqlo selling basic clothing items worldwide. Japanese fashion as pop culture is also part of "media mix", with media like manga, anime, games and film (like <i>Kamikaze Girls</i>) influencing what especially young people want to wear, and the boundaries of what is fashion and what is cosplay occasionally blurring. We will be looking at traditional as well as contemporary fashion, and both fashion in the mainstream as well as in a variety of subcultures.		
講義方法【Lecture Method】		
In this class we will take a look at a number of resources and media that deal with fashion, in Japanese and English (and others, if available with English subtitles). These include documentaries, films, mainstream articles as well as academic texts. We will read or watch them together, then analyze and discuss them. Students will be asked to give two presentations during this term (one a review of an article or chapter discussed in class, one on a self-selected topic relating to Japanese fashion)		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
Please prepare readings before coming to class, and watch the news, paying attention to news items related to fashion. People watch on your way to school and pay attention to what people are wearing. Go to the library or a bookstore regularly and leaf through some publications on fashion.		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
50% class participation (discussion, presentations) 50% end of term report (2000 words)		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s), (Title · Author · Publisher · Price)】		
MONDEN, Masafumi: <i>Japanese Fashion Cultures</i> , Bloomsbury Academic, 2229 on Kindle, 3451 paperback. Other required readings will be available on the MANABA system as pdf files or URLs, under "course contents" and "course news."		
参考文献【Recommended Literature】		
VARTANIAN, Ivan, and Tiffany GODOY: <i>Style Deficit Disorder: Harajuku Street Fashion – Tokyo</i> . Chronicle Books, 2007. CLIFFE, Sheila: <i>The Social Life of Kimono: Japanese Fashion Past and Present</i> , Bloomsbury USA Academic, 2017. 深井晃子 『きものとジャポニズム：西洋の眼が見た日本の美意識』 2017 竹村真奈 『まんがファッション』 2012 矢沢あい 『パラダイスキッス』 / Yazawa Ai, <i>Paradise Kiss</i> series, 1999~2003		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
Please take notes during every class; these notes will help you write your end of term report.		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
Japanese society	2	Milos DEBNAR
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
Topics in contemporary Japanese society	Semester 2	Tuesday 4
到達目標【Attainment objectives】		
Students should achieve better understanding of some of the main issues that contemporary Japanese society faces. Moreover, students should be able to critically assess common stereotypes or views of Japan based on cultural essentialism.		
講義概要【Lecture Outline】		
This course explores various aspects of the contemporary Japanese society and connects them with the modern development of Japan. Topics addressed by this course include demography, family, work, education or stratification and inequality in Japan today. We will focus on how these aspects of Japanese society have been changing in the face of advancing globalization or ageing society, as well as discuss the continuities from earlier periods of modern Japan. Rather than looking for some sort of general explanations, this course aims to demonstrate the multifaceted character of social reality and different approaches towards it. In order to achieve this, we will use various sources ranging from theoretical explanations, through statistics and survey data, to movies.		
講義方法【Lecture Method】		
Each class starts with a lecture followed by a group presentation by students and discussion. About two movies will be used for further illustration and deeper analysis of discussed material as well.		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
Reading assignments (each class) and preparation of a short group presentation (once in the semester) on discussed topic will be required.		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
Class participation 30%, In-class presentation 35%, Final paper (1500-2000 words) 35%		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
V.L. Bestor, T.C. Bestor, A. Yamagata eds., 2011, Routledge Handbook of Japanese Culture and Society, Routledge (copies to be provided)		
参考文献【Recommended Literature】		
Sugimoto, Y., 2014, Introduction to Japanese Society, 4th edition, Cambridge		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
Students are required to come to class prepared by finishing reading assignments. Discussion will be an essential part of the classes and students are required to actively participate in the class.		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
Japanese Technology	2	KIMURA Mutsumi NISHIHARA Michinori, HAMADA Hiroki, YAMAMOTO Yoshitaka
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
	Semester 2	Friday 4
到達目標【Attainment objectives】		
The students can understand history, current situation, future possibility of Japanese Technology. Not only such things in one country, the students can have abilities to understand industries in any country.		
講義概要【Lecture Outline】		
Japanese technologies have been used to produce many basic academics, practical engineering, and new products, which are highly evaluated at all over the world for all human beings happiness. In this "Japanese Technology", several lecturers will give multiple topics related to the Japanese technologies, such as, semiconductor devices, light-emitting diodes, laser diodes, liquid-crystal displays, solar cells, artificial intelligence, etc. The management of technology (MOT) based on the history of products development and future technologies of Japan will be included. In addition, some effective methods of management and fabrication will be introduced by comparing Japanese ones and the others, which feature Japanese technologies.		
(01) KIMURA, NISHIHARA, HAMADA, YAMAMOTO (02) HAMADA (03) HAMADA (04) HAMADA (05) HAMADA (06) HAMADA (07) NISHIHARA (08) NISHIHARA (09) NISHIHARA (10) NISHIHARA (11) YAMAMOTO (12) YAMAMOTO (13) YAMAMOTO (14) YAMAMOTO (15) KIMURA, NISHIHARA, HAMADA, YAMAMOTO		
講義方法【Lecture Method】		
The lecturers show some documents, explain them, and distribute handout if necessary. The detailed ways are different depending on the lecture. The contents for each class will be also told later.		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
Be interested in current news related to this lecture.		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
The grade will be based on (1) discussion in the class (50%) and (2) reports as homework (50%).		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
Lecture Handouts No Designated Text		
参考文献【Recommended Literature】		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
We will hold this lecture for understanding of some typical technologies in Japan. Welcome to attend to our lecture!		

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】
Japanese Pop Culture	2	FURMANOVSKY, Michael
サブテーマ【Sub Theme】	開講期	曜講時 [Tue 4]
Understanding Japanese Popular Culture in Historical Context	Semester 2	Tuesday 4
到達目標【Attainment objectives】		
Students with an interest in contemporary Japanese popular culture will be given an introduction to the actual historical conditions and forces that led to its development. They will be able to transcend the many stereotypes held about today's popular culture by seeing how it was actually created in the post-war crucible and reimagined in the modern period.		
講義概要【Lecture Outline】		
This is an introduction to the historical development of Japanese popular culture and its emergence in the transnational world. The course starts with an overview of contemporary popular culture in Japan and then steps back to find the historical background for its current configuration. There will be five main strands, namely 1. Movies & TV, 2. Popular Music, 3. Animation/ Manga/Games, 4. Fashion/Kawaii/Otaku styles and 5. Japan in Asia. We will also look at the efforts of government agencies to brand Japanese pop culture and its struggle to compete with Korean pop culture.		
1. Introduction & Brainstorming about notions of Japanese Popular Culture today 2. Post-war Japan and movies 3. Post-war Japan and popular music 4. 1960s pop culture and the birth of contemporary fashion 5. Student Presentations and Report I 6. Animation and TV 1970s 7. Japanization of Popular Music 1980s 8. Japanese Fashion and Europe 9. Gender and Popular Culture 1: Kawaii and Otaku 10. Student Presentations and Reports II 11. Manga, Games and Toys 12. Student Presentations 12. Japanese Movies: Domestic vs. Art House 13. Transnational Culture Circulation; Asian Connections 14. J-Pop and K-Pop 15. Review and Final Paper Presentations		
講義方法【Lecture Method】		
Students will be given readings for some of the classes and will use these as discussion materials in class. The class will be a combination of lecture and video documentary followed by discussion and occasional student presentations.		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
The library's collection in combination with the pdfs given to students will allow for adequate study outside class		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
20% Class participation and presentations based on the readings 80% Presentations and Reports		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
Lecture Handouts and Readings provided by the professor in pdf format		
参考文献【Recommended Literature】		
Additional readings will be suggested according to the interests of the students		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
Attendance is important and missing many classes will result in failing the class. Plagiarism is not tolerated and will result in failing the class (use references and quotations for all work from others).		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
Special Lecture 1B Japan's diplomacy in the context of globalization	2	Kazuo WATANABE
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時 【Day & Period】
Japan's diplomacy strategy in this unpredictable globalized world	Semester 2	Thursday 3
到達目標【Attainment objectives】		
Students are expected to understand that a combination of geographical, historical, economic and cultural aspects have determined Japan's diplomacy to a greater extent and that Japan has diplomatic issues to solve with her neighboring countries.		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>Boundaries are diminishing as globalization progresses, making movement of goods, money and people much easier. No single country can solve on their own, issues such as that of refugees, climate change and international terrorism. On the other hand, only a small percentage of people are able to enjoy the fruits of globalization, and consequently disparity or economic difference is widening throughout the world.</p> <p>Japan's international situation as of today is not an easy one. Tensions are mounting in Korean Peninsula, and China, under the strong leadership of Xi Jinping, continues to expand its influence over the East China Sea and South China Sea. The territorial problem with the Russian Federation is still far from resolution. US diplomacy and economic policy under the Trump Administration is very unpredictable, and accordingly, Japan will continue to be swayed by that. The situation in the Middle East is much more complicated, and the threat of terrorism by the Islamic fundamentalists still remains. Despite these complex conditions Japan must conduct her diplomacy in quest for peace and security of the East Asian region.</p>		
<p>As instructor of the course, the former Japanese Ambassador to the Republic of Colombia will shed light on Japan's current diplomatic strategy from various angles, based upon his own experience. During each class, after explanation by the instructor, informal and lively discussion will be encouraged among students as well as with the instructor.</p>		
講義方法【Lecture Method】		
The aim of this course is to provide an overall view of Japan's diplomacy and to understand the challenges caused by globalization. The course will be conducted in the following manner:		
<ol style="list-style-type: none"> 1) The instructor will give explanation and perspective on each theme. 2) After this, there will be informal discussion among students and/or with the instructor. 3) Students are required to make a presentation at least once on a certain aspect of Japan's diplomacy as well as sit for a final examination. 		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
Necessary homework will be announced at class if any.		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
Class participation and attendance: 30%, Midterm presentation: 30%, Final written examination: 40%		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title · Author · Publisher · Price)】		
Lecture handouts or reading will be provided at class.		
参考文献【Recommended Literature】		
None recommended		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
This course is entirely in English. Therefore, a certain degree of English language proficiency is required. Knowledge and information on Japan as well as critical thinking and analysis of history would be useful.		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義 1 A (囲碁)	2	今分 喜行	
日本の伝統ゲーム (囲碁)		前期	木3
到達目標【Attainment objectives】			
囲碁のルールを覚え、実際に対局ができるようになる。囲碁と日本文化に理解を深める。			
講義概要【Lecture Outline】			
囲碁は今から4,000年以上前に中国で生まれたと言われています。そして奈良時代に日本に伝わり源氏物語絵巻に見られるように宮中で盛んになり、その後、おさむらいやおぼうさんの中でも打たれるようになりました。江戸時代に徳川幕府に認められ今のような形になり非常に面白い優れたゲームとして流行してきました。最近では人工知能(AI)が囲碁の学習を取り入れ他分野で活躍できるAIの研究にも採用されました。京都は囲碁の伝統と歴史のある街です。みなさんといっしょにゲームを楽しみ、日本の囲碁について学んでいきたいと思います。			
講義方法【Lecture Method】			
ルールを覚え、実際にゲームをする。囲碁と日本文化に理解を深める。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
特になし。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
出席度数を中心に評価します。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
指定テキストなし			
参考文献【Recommended Literature】			
参考文献なし			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
授業中は日本語で会話し、囲碁のルールを覚えましょう。楽しく囲碁をしましょう。			

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義 1 B (囲碁)	2	今分 喜行	
日本の伝統ゲーム (囲碁)		後期	木3
到達目標【Attainment objectives】			
囲碁のルールを覚え、実際に対局ができるようになる。囲碁と日本文化に理解を深める。			
講義概要【Lecture Outline】			
囲碁は今から4,000年以上前に中国で生まれたと言われています。そして奈良時代に日本に伝わり源氏物語絵巻に見られるように宮中で盛んになり、その後、おさむらいやおぼうさんの中でも打たれるようになりました。江戸時代に徳川幕府に認められ今のような形になり非常に面白い優れたゲームとして流行してきました。最近では人工知能(AI)が囲碁の学習を取り入れ他分野で活躍できるAIの研究にも採用されました。京都は囲碁の伝統と歴史のある街です。みなさんといっしょにゲームを楽しみ、日本の囲碁について学んでいきたいと思います。			
講義方法【Lecture Method】			
ルールを覚え、実際にゲームをする。囲碁と日本文化に理解を深める。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
特になし。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
出席度数を中心に評価します。			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
指定テキストなし			
参考文献【Recommended Literature】			
参考文献なし			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
授業中は日本語で会話し、囲碁のルールを覚えましょう。楽しく囲碁をしましょう。			

A (前期) と B (後期) の授業内容同一 (A・B 重複受講不可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 1A (JLPT N1 対応)	2	新家 玲
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	暖講時【Day & Period】
日本語能力試験(JLPT)N1 対応	前期	水 3
到達目標【Attainment objectives】		
N1 (聴解・読解) 試験の問題に対応できるスキルを身につけます		
講義概要【Lecture Outline】		
日本語能力試験 N1 (聴解・読解) のための勉強をします。試験に出される問題形式に慣れるよう、項目ごとに解き方を学びます。		
講義方法【Lecture Method】		
問題形式を押さえて対策問題を毎回解いていきます。聴解・読解とも問題に出てくる語彙の予習プリント(宿題)を配付し、授業では能力試験対策問題を解きながら問題形式に慣れるよう練習します。授業で扱った中から、毎回語彙中心の小テストを行います。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
配付するプリントを必ず予習して参加すること。授業で扱った内容は語彙・表現だけでなく問題形式・解き方のポイント等も含めてしっかり復習してください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
小テスト…30%、模擬試験…聴解 20%、読解 20%、宿題提出率…20%、授業参加度…10%		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
1回目の授業でお知らせします。		
参考文献【Recommended Literature】		
必要に応じて、授業で適宜紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
この授業では、文法、文字語彙の範囲は扱いません。また、問題形式に慣れるを中心進めますので、合格を目指すためには、授業外での各自の学習が必ず必要です。		
一回目の授業の際に、オリエンテーションと現在のレベルを知るためのトライアルテストを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 1B (JLPT N1 対応)	2	新家 玲
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	暖講時【Day & Period】
日本語能力試験 JLPT N1 対応	後期	水 3
到達目標【Attainment objectives】		
N1 (聴解・読解) 試験の問題に対応できるスキルを身につけます		
講義概要【Lecture Outline】		
日本語能力試験 N1 (聴解・読解) のための勉強をします。試験に出される問題形式に慣れるよう、項目ごとに解き方を学びます。		
講義方法【Lecture Method】		
問題形式を押さえて対策問題を毎回解いていきます。聴解・読解とも問題に出てくる語彙の予習プリント(宿題)を配付し、授業では能力試験対策問題を解きながら問題形式に慣れるよう練習します。授業で扱った中から、毎回語彙中心の小テストを行います。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
配付するプリントを必ず予習して参加すること。授業で扱った内容は語彙・表現だけでなく問題形式も含めてしっかり復習してください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
小テスト…30%、模擬試験…聴解 20%、読解 20%、宿題提出率…20%、授業参加度…10%		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
1回目の授業でお知らせします。		
参考文献【Recommended Literature】		
必要に応じて、授業で適宜紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
この授業では、文法、文字語彙の範囲は扱いません。また、問題形式に慣れるを中心進めますので、合格を目指すためには、授業外での各自の学習が必ず必要です。		
一回目の授業の際に、オリエンテーションと現在のレベルを知るためのトライアルテストを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 1A (JLPT N2 実践)	2	森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
JLPT N2 実践	前期	水 3
到達目標【Attainment objectives】		
<p>この授業での到達目標は、次のとおりです。</p> <p>日本語能力試験N2の読み解き</p> <ul style="list-style-type: none"> * 文章全体の意味をとらえることができる * 文章の繋かい部分を正確に読み取ることができる * 問いを読み、必要な情報を探し出すことができる * 全体として伝えようとしている主張・意見をつかむことができる * 複数の文章を読み比べ、比較したり、統合したりしながら理解できる 		
<p>日本語能力試験N2の聴解の</p> <ul style="list-style-type: none"> * 質問・依頼などの文を聞いて、それに合う答えを即時に判断できる * 話の申から指示・依頼・助言などを聞き取り、これから何をするべきかが判断できる * 質問されたことにポイントを絞って聞き取ることができる * 全体の主題、話し手の意図、主張などが判断できる * 多くの情報を整理し、統合しながら話の内容が理解できる 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>この授業は日本語能力試験N2にチャレンジしようと思っている人を対象にした授業です。 読解問題、聴解問題を解くために必要な技術を身につけます。 (文法、文学・語彙の問題はしません。)</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>さまざまな形式の問題を解くためにテクニックを学び、実際に問題を解きます。答え合わせをする時は、どこに注目すれば正解が選べるのかグループで話し合ったり、分からぬことがあればお互いに助け合ったりもします。 項目ごとにクイズで、「できる」をチェックします。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>語彙を調べる、問題を解くなどの宿題を出することがあります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>平常点 60% (宿題 10%、ミニッペーパー 10%、授業参加度 20%、クイズ 20%)、模擬試験40% (読解20%、聴解20%) で評価します。</p> <p>※授業中、授業に関係のないこと (携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど) をした場合、授業参加度から減点します。</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>授業の中で紹介します。(テキストを購入する必要があります。)</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業の中で紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 一回目の授業で、今N2の問題をどのぐらいできるかをチェックするので、必ず出席してください。 ➤ 能力試験の前や模擬試験日は、3講時と4講時、続けて授業をすることがあります。 ➤ 合格するためには、他の日本語の授業、授業外での自主学習が必要です。 		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 1B (JLPT N2 実践)	2	森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
JLPT N2 実践	後期	水3
到達目標【Attainment objectives】		
<p>この授業での到達目標は、次のとおりです。</p> <p>日本語能力試験N2の読解の</p> <ul style="list-style-type: none"> * 文章全体の意味をとらえることができる * 文章の細かい部分を正確に読み取ることができる * 問いを読み、必要な情報を探し出すことができる * 全体として伝えようとしている主張・意見をつかむことができる * 複数の文章を読み比べ、比較したり、統合したりしながら理解できる 		
日本語能力試験N2の聴解の		
<ul style="list-style-type: none"> * 質問・依頼などの文を聞いて、それに合う答えを即時に判断できる * 話の中から指示・依頼・助言などを聞き取り、これから何をすべきかが判断できる * 質問されたことにポイントを絞って聞き取ることができる * 全体の主題・話し手の意図、主張などが判断できる * 多くの情報を整理し、統合しながら話の内容が理解できる 		
講義概要【Lecture Outline】		
<p>この授業は日本語能力試験N2にチャレンジしようと思っている人を対象にした授業です。</p> <p>読解問題、聴解問題を解くために必要な技術を身につけます。 (文法、文字・語彙の問題はしません。)</p>		
講義方法【Lecture Method】		
<p>さまざまな形式の問題を解くためにテクニックを学び、実際に問題を解きます。答え合わせをする時は、どこに注目すれば正解が選べるのかグループで話し合ったり、分からぬことがあればお互いに助け合ったりもします。</p> <p>項目ごとにクイズで、「できる」をチェックします。</p>		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
<p>語彙を調べる、問題を解くなどの宿題を出することがあります。</p>		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
<p>平常点 60% (宿題 10%、ミニツペーパー 10%、授業参加度 20%、クイズ 20%)、模擬試験40% (読解20%、聴解20%) で評価します。</p> <p>※授業中、授業に関係のないこと(携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど)をした場合、授業参加度から減点します。</p>		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
<p>授業の中で紹介します。(テキストを購入する必要があります。)</p>		
参考文献【Recommended Literature】		
<p>授業の中で紹介します。</p>		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一回目の授業で、今N2の問題をどのくらいできるかをチェックするので、必ず出席してください。 ▶ 能力試験の前や模擬試験日は、3講時と4講時、統けて授業をすることがあります。 ▶ 合格するためには、他の日本語の授業、授業外での自主学習が必要です。 		
A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義1A(N2基礎編)	2	三谷 閑子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本語能力試験 N2対応(基礎)		前期	水 3
到達目標【Attainment objectives】			
日本語能力試験 N2 の「語彙」「文法」を中心に行なうと、N2 合格のための基礎力をつけています。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本語能力試験 N2 テスト準備のためのクラスです。試験科目の中の「語彙」「文法」を学習し、練習します。「読解」「聴解」は予想問題を解くことで、問題の形式に慣れるようにします。必要な場合は N3 の復習も行ないます。			
講義方法【Lecture Method】			
'語彙」「文法」は毎回小テストをします。「文法」は主に N2 レベルの表現文型を学習します。「読解」「聴解」は実際と同じような問題を解きながら、問題の解き方に慣れて行ないます。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
テキストの予習、復習をしっかりとしてください。宿題はテキスト以外にプリントを配ることがあります。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
宿題提出(10%) 小テスト(20%) 中間試験(35%) 定期試験(35%)			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
講義時に指示		参考文献【Recommended Literature】	
講義時に紹介		受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】	
一週間に 1 回 90 分の授業だけでは合格できるレベルになれないことを理解してほしいです。今学期能力試験を受ける人は、それに加えて、自分の弱いところは自分で参考書や問題集を買ってどんどん勉強してください。			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義1B(N2基礎編)	2	三谷 閑子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本語能力試験 N2対応(基礎)		後期	水 3
到達目標【Attainment objectives】			
日本語能力試験 N2 の「語彙」「文法」を中心に行なうと、N2 合格のための基礎力をつけています。			
講義概要【Lecture Outline】			
日本語能力試験 N2 テスト準備のためのクラスです。試験科目の中の「語彙」「文法」を学習し、練習します。「読解」「聴解」は予想問題を解くことで、問題の形式に慣れるようにします。必要な場合は N3 の復習も行ないます。			
講義方法【Lecture Method】			
'語彙」「文法」は毎回小テストをします。「文法」は主に N2 レベルの表現文型を学習します。「読解」「聴解」は実際と同じような問題を解きながら、問題の解き方に慣れて行ないます。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
テキストの予習と復習をしっかりとしてください。宿題はテキスト以外にプリントを配ることあります。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
宿題提出(10%) 小テスト(20%) 中間試験(35%) 定期試験(35%)			
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】			
講義時に指示		参考文献【Recommended Literature】	
講義時に紹介		受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】	
一週間に 1 回 90 分の授業だけでは合格できるレベルになれないことを理解してほしいです。今学期能力試験を受ける人は、それに加えて、自分の弱いところは自分で参考書や問題集を買ってどんどん勉強してください。			

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義 1 A (日本留学試験対策)	2	三登由利子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本留学試験 読解・聴解・聴読み解対策		前期	月 4
到達目標【Attainment Objectives】			
それぞれの試験でどのような能力が問われているかを知り、得点アップに必要な試験対策スキル（時間管理、設問のパターンを見抜く、要点を読み／聞き取る、メモをとる等）を身につけることが目標です。			
講義概要【Lecture Outline】			
読解・聴解・聴読み解の問題形式について理解を深め、必要な技術を身につけることを目的に、できるだけ多くの問題をこなします。また、教師とともに正答・誤答を振り返ることによって、自分のミスの傾向に気づけるようにします。読解では主に短文を扱い、長文は宿題とする予定です。			
講義方法【Lecture Method】			
授業は演習形式で行われます。日本留学試験のたくさんの科目の中で、日本語科目的読解、聴解、聴読み解の三種類を扱います。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
授業での練習だけでは、語彙や漢字は増えません。自分で勉強することが必要になります。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
平常点（授業での練習への取り組み方や宿題の提出状況、遅刻をしないこと等）(10%)、小テスト(30%)、期末試験(60%)			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title - Author - Publisher - Price)】			
テキストを買う必要はありません。プリントを配布します。			
参考文献【Recommended Literature】			
加藤早苗ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング読解編』アルク 加藤早苗ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング聴解編』アルク 嶋田和子ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング聴読み解編』アルク			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
2018年度の試験は、6月17日と11月11日に実施されます。11月受験予定の人は、忘れずに7月に申し込むこと。			

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】	
特別講義 1 B (日本留学試験対策)	2	三登由利子	
サブテーマ【Sub Theme】		開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
日本留学試験 読解・聴解・聴読み解対策		後期	月 4
到達目標【Attainment Objectives】			
それぞれの試験でどのような能力が問われているかを知り、得点アップに必要な試験対策スキル（時間管理、設問のパターンを見抜く、要点を読み／聞き取る、メモをとる等）を身につけることが目標です。			
講義概要【Lecture Outline】			
読解・聴解・聴読み解の問題形式について理解を深め、必要な技術を身につけることを目的に、できるだけ多くの問題をこなします。また、教師とともに正答・誤答を振り返ることによって、自分のミスの傾向に気づけるようにします。読解では主に短文を扱い、長文は宿題とする予定です。			
講義方法【Lecture Method】			
授業は演習形式で行われます。日本留学試験のたくさんの科目の中で、日本語科目的読解、聴解、聴読み解の三種類を扱います。			
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】			
授業での練習だけでは、語彙や漢字は増えません。自分で勉強することが必要になります。			
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】			
平常点（授業での練習への取り組み方や宿題の提出状況、遅刻をしないこと等）(10%)、小テスト(30%)、期末試験(60%)			
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title - Author - Publisher - Price)】			
テキストを買う必要はありません。プリントを配布します。			
参考文献【Recommended Literature】			
加藤早苗ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング読解編』アルク 加藤早苗ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング聴解編』アルク 嶋田和子ほか(2011)『日本留学試験速攻トレーニング聴読み解編』アルク			
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】			
2019年度第1回の試験の申し込みは、2019年2月に始まります。大学受験に必要な人は忘れずに申し込むこと。			

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本文化入門	2	本多 真
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	履講時【Day & Period】
日本文化にふれ、日本文化について考える	前期	月 3
到達目標【Attainment objectives】		
1. 日本の文化、歴史、宗教、習俗についての理解を深めます。 2. 日本文化について、自分の意見や感想を話したり、説明したりできるようになります。		
講義概要【Lecture Outline】		
この講義では、日本文化についての理解を深めます。日本文化全般について紹介しながら、日本文化の特徴などについてディスカッションを交えながら、考えてゆきます。		
講義方法【Lecture Method】		
1. 講義・ビデオ視聴 2. 体験実習 3. クラスでのディスカッション、発表		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
ディスカッション、発表のときの準備、復習が必要です。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
見学・体験レポート 60%、発表(ディスカッション) 40%		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義のときに紹介します		
参考文献【Recommended Literature】		
講義のときに紹介します		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
1. 授業には積極的に参加してください。 2. 「知りたい」という意識をもって授業に参加してください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
日本文化入門	2	本多 真
サブテーマ【Sub Theme】	開講期【Semester】	履講時【Day & Period】
日本文化にふれ、日本文化について考える	後期	月 3
到達目標【Attainment objectives】		
1. 日本の文化、歴史、宗教、習俗についての理解を深めます。 2. 日本文化について、自分の意見や感想を話したり、説明したりできるようになります。		
講義概要【Lecture Outline】		
この講義では、日本文化についての理解を深めます。日本文化全般について紹介しながら、日本文化の特徴などについてディスカッションを交えながら、考えてゆきます。		
講義方法【Lecture Method】		
1. 講義・ビデオ視聴 2. 体験実習 3. クラスでのディスカッション、発表		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
ディスカッション、発表のときの準備、復習が必要です。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
見学・体験レポート 60%、発表(ディスカッション) 40%		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
講義のときに紹介します		
参考文献【Recommended Literature】		
講義のときに紹介します		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
1. 授業には積極的に参加してください。 2. 「知りたい」という意識をもって授業に参加してください。		

A (前期) と B (後期) の授業内容同一 (A・B 重複受講不可)

授業科目名【Class Title】	単位 [Credits]	担当者【Class Instructor】
特別講義 2A (漢字)	1	森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 [Semester]	曜講時【Day & Period】
漢字1	前期	木3
到達目標【Attainment objectives】		
この授業での到達目標は、次のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> よく使われる部首の形や意味がわかる 初めて見る漢字や漢字語彙でも、その読み方や意味がだいたいわかる 生活中でよく見る漢字を読むことができて、その意味がわかる 生活中で書かなければならない漢字を書くことができる 自分にとって必要な漢字や漢字語彙を覚える方法をいくつか知っている 		
講義概要【Lecture Outline】		
この授業は「漢字を読んだり書いたりするのが苦手だ」、「なかなか漢字が覚えられない」という人のための授業です。日常生活でよく見る漢字や漢字語彙を、理解して使えるようにしていきます。また、書くときの順番やルールも勉強します。		
講義方法【Lecture Method】		
この授業では、グループで話し合ったり、助け合ったりしながら、漢字を勉強します。今まで勉強したことがある基本の漢字を復習しながら、部首の形や意味を整理します。そして、他の語との関係の中で漢字や漢字語彙を理解して増やせるように、ことばの地図を作ったり、ゲームをしたり、実際の生活でよく見る漢字（食品のパッケージや薬の箱など）を読んでみたりします。各課が終わったら、その課で習ったことをクイズでチェックします。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
予習や漢字練習を宿題にします。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
平常点 60% (宿題 20%、授業参加度 20%、クイズ 30%)、期末試験 30% ※授業中、授業に関係のないこと（携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど）をした場合、授業参加度から減点します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s), (Title・Author・Publisher・Price)】		
授業の中で紹介します。（テキストを買う必要があります。）		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の中で紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
漢字の授業は「漢字1」と「漢字2」がありますが、一回目は和顔館B208教室でレベルチェックテストをして、その結果でクラスを決めます。必ず一回目から出席してください。		

授業科目名【Class Title】	単位 【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 2B (漢字)	1	森田 美里
サブテーマ【Sub Theme】	開講期 【Semester】	曜講時【Day & Period】
漢字1	後期	木3
到達目標【Attainment objectives】		
この授業での到達目標は、次のとおりです。		
<ol style="list-style-type: none"> よく使われる部首の形や意味がわかる 初めて見る漢字や漢字語彙でも、その読み方や意味がだいたいわかる 生活中でよく見る漢字を読むことができて、その意味がわかる 生活中で書かなければならない漢字を書くことができる 自分にとって必要な漢字や漢字語彙を覚える方法をいくつか知っている 		
講義概要【Lecture Outline】		
この授業は「漢字を読んだり書いたりするのが苦手だ」、「なかなか漢字が覚えられない」という人のための授業です。日常生活でよく見る漢字や漢字語彙を、理解して使えるようにしていきます。また、書くときの順番やルールも勉強します。		
講義方法【Lecture Method】		
この授業では、グループで話し合ったり、助け合ったりしながら、漢字を勉強します。今まで勉強したことがある基本の漢字を復習しながら、部首の形や意味を整理します。そして、他の語との関係の中で漢字や漢字語彙を理解して増やせるように、ことばの地図を作ったり、ゲームをしたり、実際の生活でよく見る漢字を読んでみたりします。各課が終わったら、その課で習ったことをクイズでチェックします。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
予習や漢字練習を宿題にします。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
平常点 60% (宿題 20%、授業参加度 20%、クイズ 30%)、期末試験 30%		
※授業中、授業に関係のないこと（携帯で遊ぶ、他の授業の課題をするなど）をした場合、授業参加度から減点します。		
テキスト（書名・著者名・出版社名・価格）【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
授業の中で紹介します。（テキストを買う必要があります。）		
参考文献【Recommended Literature】		
授業の中で紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
漢字の授業は「漢字1」と「漢字2」がありますが、一回目は和顔館B208教室でレベルチェックテストをして、その結果でクラスを決めます。必ず一回目から出席してください。		

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 2A (漢字)	1	久保 壬
漢字2	前期	木3
到達目標【Attainment objectives】		
1. 読んだり書いたりできる中級後半から上級の漢字を増やす。 2. やや難しい漢字を使った言葉の読み方や意味を理解し、日常生活や学校での活動(文章表現など)で使えるようにする。		
講義概要【Lecture Outline】		
この授業は、もっとたくさんの漢字を学びたい人のためのクラスです。小説や新聞記事など、特定のジャンルでよく使われる言葉を通じて漢字を学びます。小説や新聞記事などをまったく読めない人、また、漢字の読み書きがあまりできない人や、漢字がとても苦手な人には、この授業は難しいかもしれません。その場合は、森田先生の漢字の授業を受けたほうがいいです。		
講義方法【Lecture Method】		
小説や新聞記事など、特定のジャンルでよく使われる言葉を通じて漢字を学びます。漢字や言葉だけを学ぶのではなく、実際の文章のなかでどのように使われているかを確認しながら学びます。まずは漢字を読めること、読みが同じでも漢字が異なる言葉を区別できるなどが大事ですが、書ける漢字を増やすことも大事なので、書き取りの宿題を出します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
予習は必要ありませんが、宿題の提出が遅れないようにしてください。 小テストや定期試験がありますから、毎週からずつ復習をしてください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
主に、宿題の提出状況、小テスト、定期試験の点数で評価します。		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
この授業では、プリントを使って学習します。教科書を買う必要はありません。		
参考文献【Recommended Literature】		
便利なものがあれば、授業中に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
1回目の授業でレベルチェックテストをします。からだすテスを受けてください。		

授業科目名【Class Title】	単位【Credits】	担当者【Class Instructor】
特別講義 2B (漢字)	1	久保 壬
漢字2	後期	木3
到達目標【Attainment objectives】		
1. 読んだり書いたりできる中級後半から上級の漢字を増やす。 2. やや難しい漢字を使った言葉の読み方や意味を理解し、日常生活や学校での活動(文章表現など)で使えるようにする。		
講義概要【Lecture Outline】		
この授業は、もっとたくさんの漢字を学びたい人のためのクラスです。小説や新聞記事など、特定のジャンルでよく使われる言葉を通じて漢字を学びます。小説や新聞記事などをまったく読めない人、また、漢字の読み書きがあまりできない人や、漢字がとても苦手な人には、この授業は難しいかもしれません。その場合は、森田先生の漢字の授業を受けたほうがいいです。		
講義方法【Lecture Method】		
小説や新聞記事など、特定のジャンルでよく使われる言葉を通じて漢字を学びます。漢字や言葉だけを学ぶのではなく、実際の文章のなかでどのように使われているかを確認しながら学びます。まずは漢字を読めること、読みが同じでも漢字が異なる言葉を区別できるなどが大事ですが、書ける漢字を増やすことも大事なので、書き取りの宿題を出します。		
授業時間外における予・復習等の指示【Direction related to study out of class】		
予習は必要ありませんが、宿題の提出が遅れないようにしてください。 小テストや定期試験がありますから、毎週からずつ復習をしてください。		
試験方法・成績評価方法【Testing and Grading Method】		
主に、宿題の提出状況、小テスト、定期試験の点数で評価します。		
テキスト(書名・著者名・出版社名・価格)【Textbook(s) (Title・Author・Publisher・Price)】		
この授業では、プリントを使って学習します。教科書を買う必要はありません。		
参考文献【Recommended Literature】		
便利なものがあれば、授業中に紹介します。		
受講上の注意・担当者からのひとこと【Important Considerations/Notes from Instructor】		
1回目の授業でレベルチェックテストをします。からだすテスを受けてください。		

A (前期) と B (後期) の授業内容異なる (A・B重複受講可)